

中学部

中学部の研究について

1 研究主題

生徒が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり

2 学部研究の重点

- ・生徒が自信をもって学んだり、学んだことを実感したりするための導入や振り返り、支援の在り方について検討する。
- ・国語科の授業において、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりを行う。

3 重点の設定理由

中学部は、小学部で培った力を土台として、日常生活や社会生活で必要とされる力の基礎を育てる時期であると考えます。

昨年度は、生徒が主体となって学びをつないでいく授業づくりとして、生徒の学びをつなぐための単元づくりや授業づくりに取り組んだ。生徒が身に付けた力を発揮する場を効果的に設定したことで、生徒が見通しをもって活動を進めたり、繰り返しの中で自信をもって活動に取り組んだりできた。しかし、生徒が達成感を感じることでできる支援や振り返りの方法については課題が残った。

また、生活単元学習ではＩＣＴ機器を活用する機会が増え、生徒の学習への意欲付けにつながったり、友達と評価し合ったり、教え合ったりすることができた。しかし、生活単元学習以外の授業での活用については、まだ進んでおらず、活用の仕方について課題が残った。

今年度の中学部生は、物事に対して自分の意見をもつことができるが、それを順序立てて説明したり、文章や言葉で表現したりすることに課題が見られた。このことから、順序や筋道立てて考えたり伝えたりする力が必要であると考え国語科を設定した。そして、昨年度までの成果と課題を受けて、学部研究の重点を上記の二点とした。生徒が自信をもって学んだり、学んだことを実感したりするための導入や振り返り、支援の在り方について検討することで、国語科の授業の質の向上につながり、資質・能力を確かに育てることができると考える。また、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりを行うことで、生徒の学習意欲を高めるとともに、より学びを実感することができると考え、重点を設定した。

4 研究仮説

国語科を対象教科とし、目標や評価を明確にした単元・授業づくり、及び一単位時間の授業におけるめあてや振り返り、手立てなどを工夫しながら授業改善を行う。これらの実践を積み重ねていくことで、単元や授業の質が向上し、生徒一人一人が目的意識をもって主体的に学習活動に取り組み、学びを実感する姿を実現することができるだろう。

5 研究内容・方法

(1) 生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ①研究対象となる国語科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり
 - ・研究対象となる国語科の年間単元、及び小単元の検討と評価
 - ・他の学習場面との関連付け
- ②抽出生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善
 - ・学習グループにおける、抽出生徒の実態や目標の検討と整理
 - ・抽出生徒の変容の定期的な評価と共有
 - ・抽出生徒の変容を受けた単元の改善

(2) 生徒が学びを実感できる授業づくり

- ①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った、一単位時間の授業の構成及び手立ての検討
 - ・一単位時間の授業の目標、及び評価の検討、改善
 - ・生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿の明確化
 - ・めあてと振り返りの在り方の検討と実施、改善
- ②研究授業と授業研究会の実施
 - ・事前授業研究会、全校授業研究会の実施
- ③ＩＣＴ機器の効果的な活用方法の検討と実施
 - ・学習活動におけるＩＣＴ機器の活用についての検討
- ④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定
 - ・学部内で授業づくりに関する情報を共有する機会の設定
 - ・教材を展示し、見合う時間の設定

6 中学部研究計画

月	主な内容
4 月	【研究日】 ・ 中学部研究の方向性の確認
5 月	【研究日】 ・ 「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」の確認 ・ 国語科の重点事項の確認 ・ 事例対象生徒の抽出 ・ I C T ミニ研修（モニター、iPad）
6 月	【研究日】 ・ 抽出児童の実態やねらいの確認 ・ I C T ミニ研修（実物投影機） 【単元・題材検討日①】 ・ 令和5年度みんなのためにプロジェクトについて
7 月	【研究日】 ・ 抽出生徒の実態や変容の確認と単元の検討 ・ めあてと振り返りの在り方についての検討 ・ I C T ミニ研修（電子黒板） 【単元・題材検討日②】 ・ 国語科の年間指導計画、前期実施の授業の見直し ・ 対象グループの単元・題材構想の検討
9 月	【研究日】 ・ 第1回全校授業研究会の振り返り ・ 全校授業研究会に向けて①（単元構想の確認、検討） ・ I C T ミニ研修（ロイロノート） 【単元・題材検討日③】 ・ 国語科と他教科とのつながりの確認 ・ みんなのためにプロジェクトの前期振り返りと後期に向けて 【教材展示会】 ・ 国語科の教材を展示し、見合う
10 月	【研究日】 ・ 抽出生徒の変容の確認 ・ 全校授業研究会に向けて②（一単位授業の検討） ・ 事前授業研究会
11 月	【研究日】 ・ 全校授業研究会に向けて③ 【全校授業研究会】 ・ 全校授業研究会授業提示、研究会
12 月	【研究日】 ・ 中学部全校授業研究会を終えて
1 月	【研究日】 ・ 第3回全校授業研究会の振り返り ・ 授業実践シートの作成、実施 ・ 学部研究のまとめ（成果と課題） 【単元・題材検討日④】 ・ 国語科の単元題材の評価と次年度に向けて
2 月	【単元・題材検討日⑤】 ・ 今年度の振り返り ・ みんなのためにプロジェクト後期の振り返りと次年度に向けて
3 月	【研究日】 ・ 次年度の研究に向けて

7 研究の実際

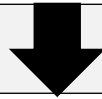
(1) 生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

①研究対象となる国語科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり

- ・年度初めに、中学部生の国語科における実態を共有し、目指す姿を学部職員で検討した。それと学習指導要領を関連付け、「中学部 国語科で大切にしたいこと」を設定した（図1）。これを基に単元づくりを行った。

【国語科における実態、学部で目指す姿など】

- ・社会人、職業人として必要な言葉（敬語、挨拶、言葉遣いなど）を身に付ける必要がある。
 - ・語彙を増やしたい。
 - ・文章を読んで情報を得る力を身につける必要がある。
 - ・物語文を読んで登場人物の心情を考えることはできるが、それを説明したり、文章に表現したりすることに課題があった。
 - ・自分の意見や、何を伝えたいのかはあるが、順序立てて説明、表現することに課題がある。
 - ・相手（他者）の感じ方、気持ちを受け入れることに課題がある。
- ◎考える力についてはついてきているので、「伝える力」を！



【学部で大切にしたいこと】

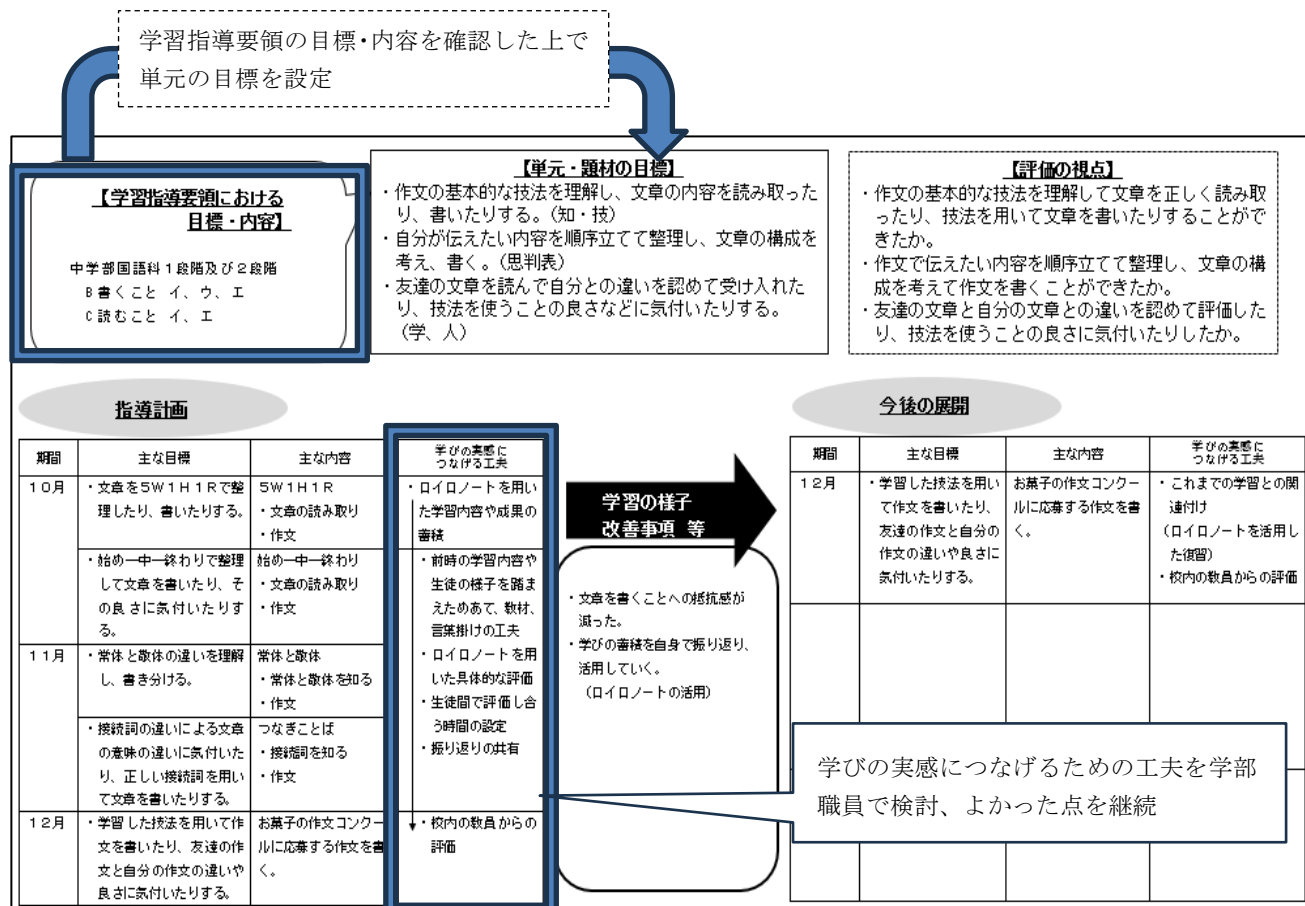
- ・前提として…適切な言葉遣い、話し方の手本、様々な表現、語彙を示していく。
 - ・国語科目標イ、C 読むことイ「出来事の順序や気持ちの変化～を捉えること」
中学部1段階及び2段階 B書くこと イ、ウ、エ C読むこと イ、エ
- ◎順序、筋道立てて考える力、表現する力を育む。
- ↓
- ・自分の考えや気持ちを順序、筋道立てて伝える。
 - ・人の思いや気持ちを受け入れる。

【図1 中学部国語科における大切にしたいこと】

- ・全校授業研究会で授業提示を行うAグループについて、単元・題材構想シートを用いて単元の検討を学部職員で行った（図2）。「中学部 国語科で大切にしたいこと」と関連付け、学習指導要領に基づいて単元の目標、評価を設定した。下段の指導計画では、生徒が意欲的に取り組める単元のゴールを設定し、目標を達成するための小単元の内容を検討した。小単元の題材は、生徒の実態を踏まえ、国語☆☆☆☆、小学校4年生国語科の教科書の内容を参考に抽出した。また、各小単元で学びにつながる工夫を検討し、よかった点を継続してきた。

<成果：○ 課題：△>

- 単元の目標を学習指導要領に基づいて設定することができた。それによって評価の視点も明確になった。
- 生徒の学びにつなげるための工夫や、改善点を学部職員で検討することができた。
- 授業者は、単元のゴールを見据えて小単元の内容を検討することができた。
- △単元・題材構想シートに記載した評価の視点で、実際に評価する機会を設定する必要がある。



【図2 単元・題材構想シート】
※シート実物は、学部研究資料後半に添付

②抽出生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善

- 学部から1名生徒を抽出し、変容を継続的に見取り、その様子から単元の改善を行ってきた。始めに抽出生徒の実態把握を行った。その際、学習指導要領国語科小学部1段階から中学部2段階までのすべての項目で◎、○、△を付けて実態を把握し、それを学部職員で共有、共通理解を図った(図3)。その後、抽出生徒事例検討シートを作成し(図4)、抽出生徒の「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」を学部で明確にしたり、学習の様子を記録して共有したりした。小単元が終わるごとに、学部職員で実際に見られた生徒の様子、変容を共有し、単元の改善につなげた。

イ・ウ	評価	イ・ウ	評価
小1	—	小1	◎
小2	—	小2	◎
小3	◎	小3	◎
中1	○	中1	○
中2	△	中2	△

学習指導要領「国語科 B 書くこと」の内容ごとに実態を◎、○、△で把握

【図3 実態把握を基に作成した表】

抽出児童生徒 事例検証シート 中 学部 対象教科： 国 語				
対象児童生徒： 中 学 部 3 年 氏名： A○		主体的に学ぶ姿：「自分から」知ろうとする、答える、疑問に思う、質問する、興味をもつ、提案する など。 学びを実感する姿：自信をもって書いたり話したりしている。「何が分かったのか」を理解して、相手に教えた・説明したりしている。		
①実態 「学習全期における、よさ・課題」 「対象教科におけるよさ・課題」 など	②のねらい 「何を、どの段階まで？」	③学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返り方法は？」	④学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤単元・題材の改善点 「何を、どう変える？」
<学習全般> ・理解力があり、内容がわかると自分で考えて取り組むことができる。 △初めての活動に対して不安感を持ちやすく、質問が多くなる。 ・アイデアを考えることができる。 △発表に対して自信がない。 △知らない言葉、知らないことが多い。 △自分の出来事や気持ちを整理して言葉で伝えることに課題がある。 <国語科> ・実態表（別紙）の中2段階からどの内容にもバランスよく△がつく。 △思ったことを文章にすることが苦手である。 △調べ学習で「何がわかったか」はわかるが、その情報を使って文章にすることが苦手である。 △文章に対する苦手意識から、友達の記事を見て同じような内容を書くことがある。 <ICT 機器> ・iPad の操作を覚えるのが早く、一人で使うことができる。	・文章から必要な情報を抜き出す。 <実態把握> ・作文の基本的な技法を用いて、一人で文章を書く。 ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、言葉や文章で表現する。 ・友達の記事を読んで、自分との違いを調べる。	国語☆☆☆☆「読手紙」「自動車の今昔」 ・必要な情報の抜き出し。 - めあての示し方 クイズにして提示。 - 振り返りの仕方 ワークシートに個人で記入。 作文～コンクールに応募しよう～ OSW1H1R（国語☆☆☆☆文集） ・文章をSW1H1Rで整理したり、書いたりする。 - 振り返りの仕方 黒板に板書して言葉で解説	期間 9月 必要な情報を書いていた。 主 2回に1回は自分の考えを整理することができていた。 要 実際の生徒の様子を踏まえ、次の単元への改善点を検討 期間 10月 ・SW1H1Rという用語に聞き慣れず戸惑う姿が見られた。1時間かけて説明をしたり、手本を示したりしたことで理解が進んだ。 ・友達の記事を聞いて、「おもしろい」と反応するようになった。友達の考えの良さに気付いていた。 ・SW1H1Rで整理することの必要性を知り、「使っていた」と振り返りに記入していた。 【他の場での活用 つながり】 ・キャリアノート、生活での教師への相談など。 ・ワークシートで整理した情報をどのように使って文章を書くのかが分かってきている。 - 文章を書くことにに対する抵抗感が減ってきていることや、作文のテーマを自分の好きなことにしたこと、意欲的に書くようになった。 ・振り返りで、「文章を書くとき、始め～中～終わりの順番がバラバラだと（内容が）わからなくなっていました。また、お話の時もしゃべる順番がバラバラだと伝わらないと思いました」と記入しており、技法の必要性を感じている。 【他の場での活用 つながり】 ・キャリアノート、生活での教師への相談など。 期間 10月 ・SW1H1Rという用語に聞き慣れず戸惑う姿が見られた。1時間かけて説明をしたり、手本を示したりしたことで理解が進んだ。 ・友達の記事を聞いて、「おもしろい」と反応するようになった。友達の考えの良さに気付いていた。 ・SW1H1Rで整理することの必要性を知り、「使っていた」と振り返りに記入していた。 【他の場での活用 つながり】 ・キャリアノート、生活での教師への相談など。	「形が多い」という意識が強い。 「形が少な」という意識が強い。 生徒同士の評価場面を設定する。（「○○さんへいいですね」などのメッセージカード形式） 「教師が良いところを伝える→友達の良いところを生徒同士で伝える」という流れから、「生徒同士でよいところを見つけ→教師が評価する」という流れに変えていく。（生徒自身で気付けるように） ・前時の生徒の様子を踏まえた学習内容、教材の工夫を継続していく。 ・これまでの学習を開き付けた言葉掛けをする。

【図4 抽出生徒事例検討シート】
※シート実物は、学部研究資料後半に添付

＜成果：○ 課題△＞

- 学習指導要領と関連付けて実態を確認したことで、より具体的に実態把握することができた。
- 小単元が終わるごとに、実際に見られた生徒の様子や変容を共有したことで、複数の視点で具体的に見取ることができた。またそれを基に、次の単元や授業への具体的な改善案を出すことができた。
- △小単元が終わってから生徒の様子・変容を記録するまでに期間を空けてしまうことがあり、実際の様子を思い出せないことがあった。小単元が終わってすぐに記録するべきだった。

- ・抽出生徒の変容を基に単元の改善を繰り返したことで、生徒が苦手とする単元に主体的に取り組んだり、学びを実感したりする姿が見られた。

＜抽出生徒の主な変容＞

- ・自分の考えや気持ちを文章に表すことに苦手意識があったが、ワークシートを工夫したり、小単元で学びを積み重ねたりすることで、伝えたい情報の組み合わせ方が分かって作文を書けるようになってきた。
- ・作文のテーマを自分で設定できるようにしたことで、苦手な作文にも意欲的に書いていた。
- ・何を学習するのが分かるめあてを設定したことで、1時間で何が分かったのか自己理解できていた。
- ・「始め～中～終わり」の単元の振り返りに「お話の時もしゃべる順番がバラバラだと分からなくなりました」と記入しており、本時の学びの重要性に気付き、自分で日常生活と関連付けていた。
- ・単元最後の振り返りに「作文が好きになりました」「勉強していくうちに自分でも作文を書けるようになって、成長したなと感じました」と記入しており、学びを実感している姿が見られた。



【写真1 作文を書く生徒の様子】

(2) 生徒が学びを実感できる授業づくり

①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

- ・5月に「生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」について、学部、学習グループごとに検討してまとめた。9月に改めて学部職員で検討し、見直しを図った(図5)。また、学びを実感するためのめあて、振り返りの在り方についても意見交換をし、検討した(図6)。

主体的に学ぶ姿	学びを実感する姿
「自分から」 知ろうとする、調べる、答える、伝える、疑問に思う、質問する、興味をもつ。	・この時間で何が分かったのかが分かる。 ・できるようになった自分を認める。 ・「自信をもって」相手に教えたり説明したりする。

【図5 中学部 主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿】

めあて	振り返り
・生徒の発言、前時の内容・振り返りからめあてにつなげる。 ・生徒にとって本時のゴールが分かるようにする。	・できたことを視覚化し、蓄積する。 ・めあてや次時へつながりをもたせる。 ・生徒が「分かったことを、自分で分かっているか」を大切にすること。

【図6 中学部 めあて・振り返りの在り方】

<成果：○ 課題：△>

- 研究対象グループでは、「生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」を明確化したことで、単元終了後に、「主体的に学んでいたか」「学びを実感していたか」を評価することができた。
 - 振り返りの『「分かったことを自分で分かっているか」を大切にすること』という中学部での重要な視点を、学部職員で意識することができた。
 - △研究対象以外のグループについては、明確にした「生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」を振り返ったり、実際の授業に生かしたりする意識付けに結び付けることができなかった。
 - △研究対象以外のグループ、他教科の授業での、学びを実感するためのめあてや振り返りの工夫につなげていきたい。
- ・3回の全校授業研究会やこれまでの研究日での取組を生かして、冬休み中に学習グループごとに授業実践シートを作成し、日頃の自分の授業を振り返るとともに、各学習グループで授業の目標や評価、めあてと振り返りの在り方を検討した(図7)。授業実践シートを通して、授業目標、評価、めあて、振り返り、学びの実感につながる手立てをそれぞれで明確にした上で、冬休み明けにそれぞれで実践した。

【図7 授業実践シートの一部】

<成果：○ 課題：△>

- これまでの授業を振り返り、一単位時間の授業について各職員が考える時間となった。
- これまでの研究日や3回の全校授業研究会を踏まえ、今年度のまとめとして研究内容を自分事として捉え、自分のグループについて検討する機会となった。
- △授業実践シートの共有や、口頭での説明を行った。実際に授業を見る機会があればよい。

②研究授業と授業研究会の実施

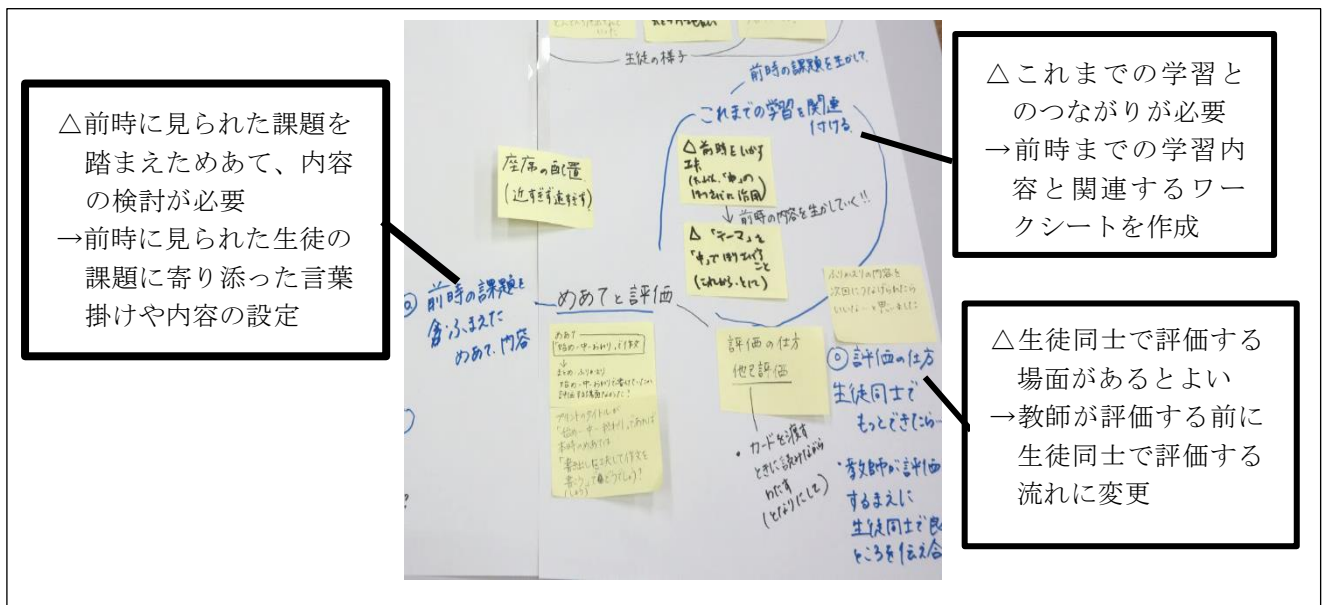
- ・全校授業研究会前に事前授業研究会を行い、対象グループの国語科の授業について話し合いを行った（写真2、3、4）。



【写真2、3 事前授業研究会 授業の様子】

【写真4 事前授業研究会の様子】

- ・事前授業研究会では、継続していくところ、改善すべきところについて意見を出し合い、全校授業研究会の提示授業へとつなげた（図8）。



【図8 事前授業研究会で出た改善点】

<成果>

- 事前授業研究会を行うことで、実際の生徒の様子を踏まえて、具体的な改善点を複数の視点から見出すことができた。
- 全校授業研究会を通して、他学部の職員からよかった点や単元の今後について意見をいただき、その後の研究日を通して、学部職員で検討することができた。

③ICT機器の効果的な活用方法の検討と実施

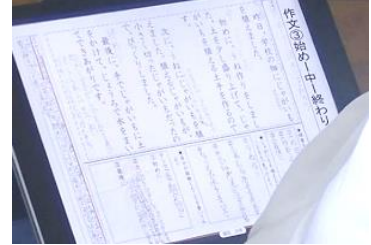
(ア) 生徒の活用

- ・国語科で生徒が学びを実感するために、「重要なポイントを確認する」「これまでの学びを蓄積し、必要なときに自分で振り返る」「友達と成果を共有する」ことをICT機器で行うことが可能か検討してきた。その過程で、ロイロノートがそれらの機能を有しており、効果的に活用できたため、生徒一人一人のiPadでロイロノートを毎時間活用した。

(写真5、6、7)

<成果：○ 課題：△>

- ロイロノートを毎時間活用したことで、これまでの学びを蓄積することができた。どこにどの学びが蓄積されているのか生徒自身が分かり、自分で必要なときに自分で振り返ることができていた。
- ロイロノートを活用することで、友達の作文を自分から見るようになったり、よいところに自分で注目することができたりした。
- △ロイロノートで蓄積してきたページを、他の単元や他教科、別の場面でも実際に使用していきたい。



【写真5、6、7 授業でのロイロノートの活用】

(イ) 職員の研修

- ・研究日に、生徒が使用しているロイロノートの機能を学部職員全員が体験し、その機能の有効性について確認した（写真8、9）。
- ・研究日にICTミニ研修を毎回実施した。普段授業で使用する頻度の高い、電子黒板やモニター、実物投影機の基本的な操作方法を確認した（写真10）。



【写真8、9 中学部職員 ロイロノート研修】

【写真10 ICT機器ミニ研修】

<成果：○ 課題：△>

- 生徒が実際に使う機能を体験したことで、生徒が使用する際の注意点や、機能の有効性を複数人で確認することができた。
- 普段の授業で使用頻度が高いICT機器の基本操作を丁寧に確認したことで、ICT機器を使用することに対する抵抗感が減ったり、次の日から活用できる情報を得たりすることができた。
- 普段使用していて分からなかったことを、全員で確認する機会となった。
- △他教科でのロイロノート等 iPad の機能の活用を検討していく。
- △毎回新しい機能を研修したが、研修済みの内容を定期的に振り返り、定着する機会を設定していきたい。

④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定

- ・中学部国語科の教材を見合う会を実施した。国語科A～Fグループの学習で使用しているプリントや教材を持ち寄って展示し、中学部職員で見合ったり、助言したりした（写真12、13）。



【写真12、13 教材を見合う会の様子】

<成果：○ 課題△>

- 普段グループ学習を行っているため教材を見る機会がなかったが、見合う会を実施したことで、それぞれの生徒がどんな学習をしているのか共通理解することができた。
- グループ担当以外の教員から助言をいただき、生徒の実態に合わせた教材づくり、授業づくりのヒントを得ることができた。
- △助言を元に改善した後、どのような変化が見られたか等、改善後の共有が必要であった。
- △生徒が実際に使用している様子を見たり、教員同士で生徒役、教師役に分かれて使用してみる等の機会を設定したい。

8 成果と課題のまとめ

成 果

- ・「国語科における大切にしたいこと」を明確にする際や、抽出生徒事例検証シートを作成する際に、実態把握を丁寧に行うことで、学習指導要領の目標・内容と関連付けることができた。それによって単元・題材構想シートを作成する上で、単元の目標を学習指導要領に基づいて設定することができた。また、それによって評価の視点を明確にすることができた。
- ・抽出生徒の「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」を明確にしたことで、単元終了後に「主体的に学んでいたか」「学びを実感することができたか」を、実際の姿と関連付けて見取ることができた。
- ・抽出生徒の小単元ごとの変容を見取り、次単元への改善点を検討したことで、より生徒の主体性や学びを実感することにつなげることができた。改善を繰り返しながら小単元を積み重ね、生徒の実態に合わせた内容を設定したり、生徒に寄り添った支援を検討したりすることで、文章を書くことに苦手意識がある生徒が、作文を書くことの楽しさを感じ、主体的に書くことができるようになった。また、振り返りに「作文を書けるようになって成長したと感じる」と、学びを実感する姿が見られた。
- ・ＩＣＴ機器（ロイロノート）を有効に活用したことで、これまでの学びを蓄積することができ、生徒が自分で簡単に振り返ったり、友達の成果にも興味をもつようになったりした。
- ・研究日にＩＣＴミニ研修を行うことで、ＩＣＴ機器を活用することに対する抵抗感を減らしたり、日々の授業に役立つ情報を得たりすることができた。

課 題

- ・抽出生徒だけでなく、全生徒の「生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」を明確にする必要がある。
- ・「主体的に学び、学びを実感するためのめあてと振り返り」とはどのようなものか検討したことで、めあてと振り返りについて学部職員で考えを深めることができたが、実際にそれらを意識して授業づくりをするところまで至らなかった。
- ・単元での学びを発揮するゴールを単元内で設定するだけでなく、他教科等の学習と関連を図り、より生徒が学びを実感することができるようにしていくことが必要である。そのため、他教科等の活動で求められる国語科の資質・能力を明確にしたり、単元や活動計画と関連付けて単元づくりを行ったりするなどの工夫が考えられる。

中学部 国語科各グループの 「主体的に学ぶ姿」「学びを実感している姿」

グループ	主体的に学ぶ姿	学びを実感している姿
A	・自信をもっている。	・自分ができるようになったことが分かる。 ・過去の自分の姿と向き合っている。
B	・分からないことがあったときに、iPad を使用して自分から調べる。	・学んだことに対し、これまでの学びを関連付けて発言している。
C	・やることが分かり、自分から学習に取り組む。 ・少し難しい課題に、自分から質問し、あきらめずにやってみようとする。	・「わかった、そういうことか！」と反応している。 ・グループ活動での「そうだよね！」という学び合いがある。
D	・自分で学習の準備をする。 ・「次の国語はいつですか？」「もう一回やりたい」「今日は～が分かったから、次もやってみたい」という発言をする。	・「今日は～に気を付けて…できた」と話す。 ・「もうこの補助具がなくてもできる！」と話す。 ・別のプリントでも学んだことを生かしている。 ・「～で発表したい」という自信をもっている。
E	・手を挙げて発表する。 ・やります！やりたい！と発言する。 ・問い掛けに対して答える。 ・顔を上げて話を聞いたり、友達と話し合ったりしている。	・自分の頑張りを見て（成果物、動画）「できた！」「頑張った！」と発言する。 ・「何を頑張りました？」という問いかけに対し、自信をもって答える。
F	・自分から教師の真似をして発声している。 ・文字に興味をもち、書こうとする。 ・絵本を見て、知っている事物を指さして表現する（自分から手を伸ばす）。	・日常生活で、学んだことと関連付けて表現している。

令和5年度 中学部 国語科 における大切にしたいこと

【国語科における実態、学部で目指す姿など】

- ・ 社会人、職業人として必要な言葉（敬語、あいさつ、言葉遣いなど）を身に付ける必要がある
 - ・ 語彙を増やしたい
 - ・ 文章を読んで情報を得る力を身に付ける必要がある
 - ・ 物語文を読んで登場人物の心情を考えることはできるが、それを説明したり、文章に表現したりすることに課題があった
 - ・ 自分の意見や、何を伝えたいのかはあるが、順序立てて説明、表現することに課題がある
 - ・ 相手（他者）の感じ方、気持ちを受け入れることに課題がある
- ◎考える力についてはついてきているので、「伝える力」を！



【学部で大切にしたいこと】

- ・ 前提として…適切な言葉遣い、話し方の手本、様々な表現、語彙を示していく
- ・ 国語科目標イ、C読むことイ「出来事の順序や気持ちの変化～を捉えること」
中学部1段階及び2段階 B書くこと イ、ウ、エ C読むこと イ、エ
◎順序、筋道立てて考える力、表現する力を育む



- ・ 自分の考えや気持ちを順序、筋道立てて伝える
- ・ 人の思いや気持ちを受け入れる

令和5年度 中学部 国語科 における大切にしたいこと 2グループに分かれて協議した内容

国語科における実態、学部で目指す姿など	
グループ①	グループ②
・ 文字を読んで情報を得ることが難しい。質問に対する答えの手がかりを見付けることが難しい。 ・ 「順序立てて考える力」や「相手の感じ方や考え方を受け入れる姿」を育みたい。	・ 社会人や職業人として必要な敬語、挨拶、話し方を身に付けたい。 ・ 物語文を読んで、出来事の順序を理解する力を身に付けたい。 ・ 自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。 ・ 相手の気持ちを理解しようとする姿を育みたい。 ・ 一人一人の感じ方に違いがあることを知る。



国語科における実態、学部で目指す姿など	
グループ①	グループ②
・ 文字を読んで情報を得ることが難しい。質問に対する答えの手がかりを見付けることが難しい。 ・ 「順序立てて考える力」や「相手の感じ方や考え方を受け入れる姿」を育みたい。	・ 社会人や職業人として必要な敬語、挨拶、話し方を身に付けたい。 ・ 物語文を読んで、出来事の順序を理解する力を身に付けたい。 ・ 自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。 ・ 相手の気持ちを理解しようとする姿を育みたい。 ・ 一人一人の感じ方に違いがあることを知る。

単元・題材検討シート

国語科

中学部

A グループ

【単元・題材名】 作文～コンクールに応募しよう～

【学習指導要領における

目標・内容】

中学部国語科 1 段階及び 2 段階

B 書くこと イ、ウ、エ
C 読むこと イ、エ

【単元・題材の目標】

- ・作文基本的な技法を理解し、文章の内容を読み取ったり、書いたりする。(知・技)
- ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、文章の構成を考え、書く。(思判表)
- ・友達の文章を読んで自分との違いを認めて受け入れたり、技法を使うことのよさに気付いたりする。(学、人)

【評価の視点】

- ・作文の基本的な技法を理解して文章を正しく読み取ったり、技法を用いて文章を書いたりすることができたか。
- ・作文で伝えたい内容を順序立てて整理し、文章の構成を考えて作文を書くことができたか。
- ・友達の文章と自分の文章との違いを認めて評価したり、技法を使うことのよさに気付いたりしたか。

指導計画

時間	主な目標	主な内容	学びの実感につなげる工夫
10月	・文章を 5W1H1R で整理したり、書いたりする。 ・始め～中～終わりで整理して文章を書いたり、そのよさに気付いたりする。	5W1H1R ・文章の読み取り ・作文	・ロイロノートを用いた学習内容や成果の習慣
11月	・帯体と帯体の違いを理解し、書き分ける。 ・接続詞の使いによる文章の意味の違いに気付いたり、正しい接続詞を用いて文章を書いたりする。	始め～中～終わり 文章の読み取り 作文 帯体と帯体 帯体と帯体を知る 作文 つなぎことば 接続詞を知る 作文	・前時の学習内容や生徒の様子を踏まえ、適切な言葉掛けの工夫 ・ロイロノートを用いた具体的な評価 ・生徒間で評価し合う時間の設定 ・振り返りの共有
12月	・学習した技法を用いて作文を書いたり、友達の作文と自分の作文の違いやよさに気付いたりする。	お菓子の作文コンクールに応募する作文を書く。	・校内の教員からの評価

今後の展開

学習の様子 改善事項

- ・文章を書くことへの抵抗感が多かった。
- ・学びの習慣を自身で振り返り、活用していき。
- ・(ロイロノートの活用)

期間	主な目標	主な内容	学びの実感につなげる工夫
12月	・学習した技法を用いて作文を書いたり、友達の作文と自分の作文の違いやよさに気付いたりする。	お菓子の作文コンクールに応募する作文を書く。 ・「お菓子のちから」をシンキングツールで考える。	・これまでの学習との関連付け(ロイロノートを活用した振り返り) ・校内の教員からの評価

対象児童生徒： 中学部 3 年 氏名：A				
① 実態 「学習全般におけるよさ・課題」 「対教材料におけるよさ・課題」	② ねらい 「何を、どの段階まで？」	③ 学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返りはどうする？」	④ 学習の様子 「主体的に学んでいくか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤ 単元・題材の改善点 「何を、どう変える？」
<学習全般> ・理解力があり、内容が分ると自分 で考え取組むことができる。 △切迫での活動に対して不安感をも ちやすく、質問が多くなる。 ・アイデアを考えることができる。 △発表に対して自信がない。 △知らない言葉、知らないことが多く △自分の出来事や気持ちを整理して 言葉で伝えることに課題がある。	・作文の基本的な技法 を用いて、一人で文 章を書く。 ・自分が伝えたい内容 を順序立てて整理 し、言葉や文章で表 現する。 ・友達の文章を読ん で、自分との違いを 認めたり、よさなど に気付いたりする。	作文～コンクールに応募しよう～ (O)国語☆☆☆文芸 ・文章を5WHIRで整理したり、書いたり する。 めあての示し方 黒板に板書して言葉で解説 振り返りの仕方 授業の感想を個人で記入	・5WHIRという用語に聞き慣れず戸惑う姿が見 られた。1時間かけて説明をしたり、手本を示 したりしたことでも理解が進んだ。 ・友達の文章を聞いて、「おもしろい」と反応する ようになった。友達の考えのよさに気付いてい た。 ・5WHIRで整理することの必要性を知り、「使っ ていきたい」と振り返りに記入していた。 【他の場での活用 つながり】 キャリアノート、生活での教師への相談など	・生徒同士の評価の場面 を設定する。 (「OOさんへ～がい いですね」などのメッ セージカード方式)
<国語科> ・実態表の中2段階からどの内容にも バランスよく△がつく。 △思ったことを文章にすることが苦 手である。 △調べ学習で「何が分かったか」は分 かるが、その情報を使って文章にす ることが苦手である。 △文章に対する苦手意識から、友達 の文章を見て同じような内容を書 くことがある。		○始め一中一終わり(国語☆☆☆文芸よく書くこと) ・始め一中一終わりで整理して文章を書 いたり、そのよさに気付いたりする。 振り返りの仕方 前時の内容を確認して、黒板に板書 めあての示し方 ・ロイロノートで提出した作文に線を引き ながらめあてを達成した作文になってい るか確認 ・友達同士で、文章を読んだ感想をカード に書いて交換する場面を設定 ・作文を書いている時に、気付いたこと をワークシートに記入、口頭で共有	・ワークシートで整理した情報をもとのように使って 文章を書くのが分かってきている。文章を書 くことに對する抵抗感が減ってきていること や、作文のテーマを自分の好きなことにしたこと で着実に書くようになった。 ・振り返りで、「文章を書くとき、始め一中一終わり の順番がバラバラだと(内容が)わからなくなる と思いました。また、お話の時もしゃべる順番が バラバラだと伝わらないと思います」と記入し ており、技法の必要性を感じている。 【他の場での活用 つながり】 キャリアノート、生活での教師への相談など	・「教師がよいところを える→友達の良いところ を生徒同士で伝える」とい う流れから、「生徒同士 でよいところを見つける →教師が評価する」とい う流れに変えていく。(生 徒自身で気付けるように) ・前時の生徒の様子を踏 まえた学習内容、教材 の工夫を継続する。 ・これまでの学習を関連 付けた言葉掛けをす る。
<ICT機器> ・iPadの操作を覚えるのが早く、一人 で使用するができる。		○「敬体と常体」 (国語☆☆☆文芸 敬体と常体)	・「敬体の方が感じがする」と言っていた。 ・作文を書き終った後に、自分の作文の文がそろ っているか自分で確認する様子が見られた。 ・普段の会話の中でも気を付けたいと話していた。	・つなぎ言葉の単元で作 文を書きときも、常体、敬 体に気を付けるための 言葉掛けをする。
		○「つなぎ言葉」(本時) (国語四上ーかがやきー「つなぎ言葉のは たらきを知ろう」、国語四下ーばばたき ー「つなぎりに気を付けよう」)	・「説明したいから」と目的を考え、「なぜかとい う」という接続詞を適切に使っていた。 ・応募する作文でも、つなぎ言葉を意識して文を構 成していた。	・作文という「中」を影ら ませるために「おかし なから」について考える 時間を設定する。
		○コンクールに応募しよう (お菓子の作文コンクール)	・過去のロイロノートにあるワークシートやカード 書き終わり、接続詞を使って作文を書いていた。 →「あのとときこういう学習した」と学びを実感していること、自分で振り返 る内容をも少し増やしたいと考えて、書いていた。 ・内容をもう少し増やしたいと書いていた。→作文の苦手意識 なく なってきた。	

【ICT機器活用シート】

中学部 国語科 Aグループ

ICT機器活用場面①（ 10月 6日）	
活用のねらい	・生徒が自分の学びを蓄積するために活用 ・生徒が分からないことを調べるために活用 ・教師がこれまでの学習を共有するために活用
対象、機器 活用場面	・学習全般で生徒がロイロノートを活用 ・学習の中盤、自分のワークシートをロイロノート上で共有するために、iPadの「ファイル」でワークシートをスキャンして保存、提出
学習の様子	・教師に質問しながら、少しずつロイロノートの操作を覚えてきている。
改善点	・生徒の学習に関係のない操作に対する画面口グックや言葉掛け



ICT機器活用場面②（ 10月 26日）	
活用のねらい	・生徒が自分の学びを蓄積するために活用 ・生徒が分からないことを調べるために活用 ・教師がこれまでの学習を共有するために活用 ・友達の作文を読んだり、よいところに気付いたりするために活用
対象、機器 活用場面	・学習全般で生徒がロイロノートを活用 ・学習の中盤、自分のワークシートをロイロノート上で共有するために、iPadの「ファイル」でワークシートをスキャンして保存、提出 ・学習の終盤、ロイロノート上で生徒の作文を共有して評価
学習の様子	・ロイロノートの操作に慣れ、操作にかかる時間が減った。 ・友達の作文を表示して読むなど、興味をもつようになった。 ・自分でこれまでの蓄積を振り返っていた。
改善点	・蓄積してきた学習データの活用

中学部 国語科 Aグループ 学習指導案

日 時：11月24日(金)2校時
場 所：中3教室
生 徒：中学部 3年生 4名
指導者：吉田翔一

1 単元名 作文～コンクールに応募しよう！～

2 単元の目標

- (1) 作文の基本的な技法を理解し、文章の内容を読み取ったり、書いたりする。(知識・技能)
- (2) 自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、文章の構成を考え、書く。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 友達の文章を読んで自分との違いを認めて受け入れたり、文法を使うことのよさなどに気付いたりする。(学習に向かう態度、人間性)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学習グループは、中学部3年生の男子2名、女子2名の計4名で構成されている。主な障害は知的障害である。全員が小学校2～3年生程度の漢字を読み書きすることができる。漢字や俳句の学習などは自分から進んで取り組む姿が見られるが、文章の読解や作文については、自信のなさから消極的な様子が見られる。様々な活動の中で、考えたり思い付いたりする力はあるが、それらを順序立てて整理して文章にしたり、友達の発言を聞いて内容の違いを認めたりすることには課題を抱えている。また、iPadを使用することへの意欲は強く、今年度の学習では、ロイロノートを使用することで前時の振り返りができることに気付き、自分から前の時間の内容を調べる姿も見られている。文章を書く経験は、日頃から学習の目標や振り返りを書く「キャリアノート」や新聞作りなどがあり、自信はないが教師に相談するなどして書く様子が見られる。

(2) 単元について

本単元では、作文で用いられる情報の整理や文章の構成、接続詞などの基本的な技法について学習する。これらは相手に自分の考えを伝える上で重要な要素である。発達段階を考慮して、国語☆☆☆☆や国語☆☆☆☆、国語～四～上下の内容を参考とした。内容を整理したり順序立てたりして文章構成を身に付けるために観点として「5W1H1R」、まとめ方として「始め～中～終わり」、文章を構成する上で必要な言葉遣いである「敬体と常体」、文と文をつなぐのに必要な「つなぎ言葉」の学習の5つの小単元で構成する。それぞれの小単元で、技法について学習・まとめを1時間、前時の内容を用いて、自分で作文、発表、共有する時間を1時間とする。2時間に分かれた授業構成となるため、授業のつながりに留意が必要にはなるが、板書やワークシート、ロイロノートなどを活用すること、それぞれの活動に十分に時間を掛けて行うことなどからこのような小単元の構成とした。また、単元の最後に全日本菓子協会が主催する「お菓子についての作文コンテスト」への出展作品を作文する。テーマが普段からなじみのあるお菓子であることや字数が400～800字以内とちょうどよい分量であること、作文をするという明確なゴールを設定できることなどから、生徒が意欲的に学びに向かうきっかけになると考え学習活動を設定した。

以上のような学習を行うことで生徒が多様な文章の表現方法を身に付け、自分の考えや感じたことを自分の言葉で表現することに自信をもてるようになることを考える。また、生活単元学習での新聞作成や総合的な学習の時間「みんなのためにプロジェクト」でのキャリアノートの作成など、生活上の様々な場面で文章を書く場面があり、学習した内容を生かす場面が多岐に渡るため、学んだことを発揮、実感する機会が豊富であると考え本単元を設定した。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・1時間の活動量が多くなりすぎないように、用語の使い方について学習する時間と実際に学習したことを使って文を書く時間を分けて設定する。(主・深)
- ・前時に学んだことを各自で振り返ることができるように、ロイロノートで自分のワークシートを振り返る時間を設ける。(主・対)
- ・色々な考え方に触れることができるように、友達の文章を聞いたり、読んだりする時間を設定する。(対)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・学習に見通しをもつことができるように、毎時間同じ様式のワークシートを使用する。(主)
- ・必要な時に振り返ることができるように、黒板に学習した用語を掲示しておく。(深)

- ・必要な時に振り返ることができるように、ロイロノートに毎時のワークシートを蓄積する。
(対・深)

〈教師の働きかけ〉

- ・生徒が自分の考えや気付きを主体的に話することができるように、「できてるよ」「いいね」などの肯定的な言葉掛けをする。(深)

4 指導計画（総時間数 10時間）

学習活動	ねらい	時数
○作文 ～コンクールに応募しよう～ 「5W1H1R」 ※国語☆☆☆☆「文集」	・書く内容について、いつ、どこで、何がなどの項目ごとに、表を用いて整理する。(思判表) ・5W1H1Rで書かれている文章を読んで、内容を読み取ったり、自分で文章を書いたりする。(知・技)	2時間
○作文 ～コンクールに応募しよう～ 「始め－中－終わり」 ※国語☆☆☆☆ 「順序よく書こう」	・始め－中－終わりの文章構成になるように表を用いて内容を整理したり、文章を書いたりする。(知・技)(思判表) ・文章の構成による伝わり方の違いやよさについて気付いたり、考えたりする。(学、人)	2時間
○作文 ～コンクールに応募しよう～ 「敬体と常体」 ※国語☆☆☆☆ 「敬体と常体」	・話し言葉と書き言葉や敬体と常体の違いに気付く。(学、人) ・話し言葉を書き言葉に書き換えたり、常体と敬体の違いを理解し、書き分けたりする。(知・技)	2時間
○作文 ～コンクールに応募しよう～ 「つなぎ言葉」 ※国語四上－かがやき－ 「つなぎ言葉のはたらきを知ろう」 国語四下－はばたき－ 「つながりに気をつけよう」	・順接や逆接などの接続詞を正しく用いて、文章を書く。(知・技) ・接続詞の違いによる文章の意味の違いや変化に気付く。(学、人)	2時間 (本時2／2時間)
○作文 ～コンクールに応募しよう～ 「作文」	・学習した文章の技法を使いながら、自分の好きな物やことについて文章を作る。(知・技)(思判表) ・友達の作文を読んで自分との違いに気付いたり、よさを考えたりする。 (学、人)	2時間

※は参考とした教科書の題材

5 本時の計画（総時数 8 / 10）

（1）全体の目標

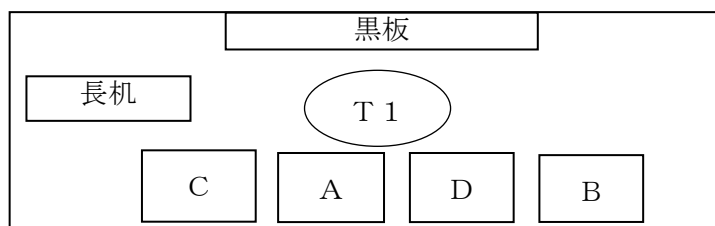
- ・順接や逆接などの接続詞を正しく用いて、文章を書く。（知・技）
- ・接続詞の違いによる文章の意味の違いや変化に気付く、友達のよいところを見つける。（学、人）

（2）個別の目標

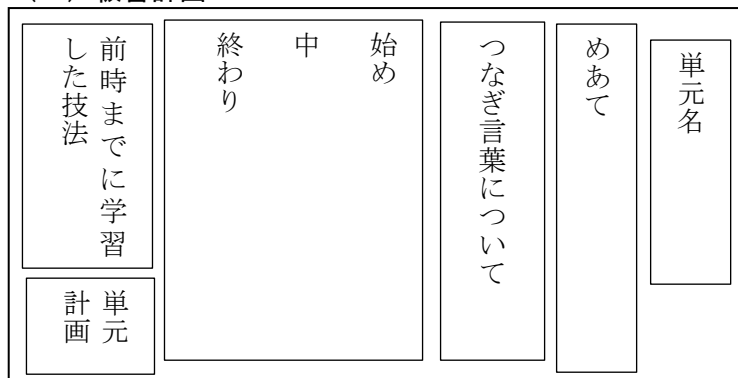
氏名	生徒の実態と学習の様子	個別の指導計画の目標	単元の目標	本時の目標
A	学習活動にはとても意欲的に取り組んでいる。分からない漢字や語句があるときも自分から辞書で調べたり、教師に質問したりすることができる。友達が困っているときには教えてあげることがある。iPadの操作も一人でスムーズに行うことができる。 書きたい内容や伝えたいことはあるが、自分一人で内容を整理したり、文章にしたりすることに自信がない。そのため、毎回同じような内容で文章を書いたり、教師と相談したりする姿が見られる。 友達の文章を読んで、「いいね」や「おもしろい」と話すが、具体的な内容や理由などを伝えるのは難しい。	・言葉の意味を理解して読み書きできる漢字を増やす。 ・文章を正しく読み取り、物語の感想や意見を表す。	・作文の基本的な技法を用いて、一人で文章を書く。（知・技） ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、言葉や文章で表現する。（思判表） ・友達の文章を読んで、自分との違いを認めたり、よさなどに気付いたりする。（学、人）	・接続詞を正しく用いて、文章を書く。（知・技） ・友達の文章を読んで、自分との書き方や表現方法などの違いに気付く。（学、人）
B	新しいことを学びたいという意欲はあるが、周囲と比較したり、難しいと感じたりすると情緒が不安定になることがある。授業で分からなかったことがあると、ノートに自分でまとめる、教師に聞くなど、自分から行動に移すことができる。 教師との交換日記では、話し言葉で書くことが多い。また、接続詞を用いて、内容を整理して書くことが難しい。 友達の文を読んで感想を話すことができるが、違いやよいところを見付けることには教師の補助が必要である。	・物語を読んで出来事を整理したり、登場人物の気持ちを考えたりする。	・作文の基本的な技法を理解し、文章の内容を読み取ったり、書こうとしたりする。（知・技） ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、文章の構成を考え、言葉や文章で表現する。（思判表） ・友達の文章を読んで、自分との違いを認めたり、よさなどに気付いたりする。（学、人）	・表を参考にしながら、接続詞を用いて文章を書く。（知・技） ・友達の文章を読んでよいところを考える。（学、人）
C	分からない、できないことへの不安感が強く、学習に取り組むのに時間がかかることがある。時間を設定することで、自分で気持ちの整理をして、学習に臨むことができる。分からないことや不安なことがあると教師の関心を引こうとすることもある。 文章を書くことに自信が	・物語や詩を読んで登場人物の気持ちを考えたり、自分の感想を発表したりする。	・作文の基本的な技法を理解し、自信をもって文章を書く。（知・技） ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、言葉や文章で表現する。（思判表） ・友達の文章を読んで、違いを認め	・自分の書きたいことについて、接続詞を用いて文章を書く。（知・技） ・友達の文章を読んで、自分との違いやよいと感じたことを友達に伝える。（学、人）

	ないが、教師と内容を確認したり、経験がある内容であったりすると一人で文章を書くことができる。 友達の文章に対して「ここが面白い」や「いいね」などと伝えることができる。		たり、よさなどに気付いたりする。 (学、人)	
D	どんな勉強にも真面目に取り組む。授業の中でのやり取りは教師との物が多く、友達と相談したり、話したりする場面は少ない。 文章を書くときには思いついたことを短文で羅列する書き方になり、時系列や伝えたいことが曖昧になってしまう。 友達の文章を読んで、「いいね」や「おもしろい」と話すが、具体的な理由などを伝えるのは難しい。	・物語を読んで出来事を整理したり、登場人物の気持ちを考えたりする。	・作文の基本的な技法を理解し、文章の内容を読み取ったり、書いたりする。(知・技) ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、文章の構成を考え、言葉や文章で表現する。(思判表) ・友達の文章を読んで、自分との違いを受け入れたり、よさなどに気付いたりする。 (学、人)	・表を参考にしながら、接続詞を用いて文章を整理して、書く。 (知・技) ・友達の文章を読んで、自分との書き方の違いやよいところを考える。(学、人)

(3) 配置図 < 中学部 3 年教室前方 >



(4) 板書計画



(5) 学習過程 ※ **太字ゴシック**は、学びの実感を高めるための働き掛け、手立て
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:35 (12)	1 始めの会をする。 (1)挨拶 (2)本時の活動の確認 (3)前時の振り返り (4)めあての確認	・ロイロノートにログインしておくことができるように i P a d と I D カードを用意する。 ・前時の学習を思い出すことができるように、ロイロノートで前時の板書とワークシートを配付する。 ・今日の学習内容に見通しをもつことができるように、生徒からキーワードを引き出したり、めあてを穴埋めにしてヒントを伝えたりする。	i P a d ワークシート I D カード
	めあて つなぎ言葉を使って、文章をつなげよう！		
9:47 (20)	2 自分でテーマを決めて作文する。 (1)書く内容の整理 (2)作文 (3)提出 (4)発表	・前時までに学習した「始めー中ー終わり」での内容構成を意識することができるように、ワークシートに情報を整理するための表を用意したり、板書で示したりする。 ・作文をするときに確認することができるように、前時に学習した「つなぎ言葉」のポイントをロイロノートで配布する。 ・他の生徒の文章を見ることができるように、ロイロノートで生徒のワークシートを画面共有する。	
10:07 (16)	3 まとめをする。 (1)友達のよいところを友達のワークシートに書く (2)個別に振り返る (3)提出 (4)先生から	・友達の作文を読んだ感想を書くことができるように、「〇〇さんへ～〇〇より」というスペースをワークシートに設ける。 ・友達のよいところを見つけるのに困っている様子が見られた場合は、「つなぎ言葉が使われているのはどこですか」や「よいと感じたところはどこですか」などの言葉掛けをする。 ・次時の学習でも本時の内容を振り返ることができるように、ワークシートに本時の作文をして分かったことや気付いたことをまとめる場面を設定する。 ・発表した作文に使われている接続詞が分かるように、ロイロノート上で教師が傍線を書き加える。	
10:23 (2)	4 終わりの会をする。 (1)次時の内容の確認 (2)挨拶	・次時の学習内容に見通しをもつことができるように、次回の学習で取り上げる内容についてのキーワードを単元計画表で伝える。	

(6) 評価

- 〈生徒〉・接続詞に関する表を活用して、自分の伝えたい内容をうまくつなげて文章を書くことができたか。
・発表を聞いた感想や気付きをワークシートにまとめていく過程で、友達と自分の文章の違いやよさに気付くことができていたか。
- 〈教師〉・生徒が内容を整理するための手立てや、他者の意見に触れる機会等の環境設定、学習活動は適切であったか。
・友達と自分の文章の違いについて考えたり、接続詞の重要さに気付いたりするための手立てや題材設定は適切であったか。

(7) 個別の目標（本時）に関わる支援

児童生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	・つなぎ言葉を意識することができるように、前時に学んだ用語を黒板に掲示したり、ロイロノートに配布したりする。 ・友達の文章との違いに気付くことができるように、「○○さんは違う書き方をしているね」のような言葉掛けをする。	2 作文を作る
		2 作文を作る
B	・つなぎ言葉を使って、文章を書くことができるように、様子を見て「できているよ」「いいね」などの肯定的な言葉掛けをする。 ・友達の文章のよさに気付くことができるように、「○○さんの文章はどう思う？」のような発問を行う。	2 作文を作る
		2 作文を作る
C	・つなぎ言葉を使って、文章を書くことができるように、様子を見て「できているよ」「いいね」などの肯定的な言葉掛けをする。 ・友達の文章との違いに気付くことができるように、「○○さんは違う書き方をしているね」のような言葉掛けを行う。	2 作文を作る
		2 作文を作る
D	・つなぎ言葉を意識することができるように、前時に学んだ用語を黒板に掲示したり、ロイロノートに配布したりする。 ・友達の文章のよさや違いに気付くことができるように、「○○さんの文章はどう思う？」のような発問や「○○さんはこう書いていたよ」のような言葉掛けを行う。	2 作文を作る
		2 作文を作る

高等部

高等部の研究について

1 研究主題 生徒が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり

2 学部研究の重点

- ・生徒自らが目的意識をもち、これまでの経験や学びを活かすために筋道を立てて考え、友達と共に問題解決していこうとする姿を目指した単元・授業づくり、授業改善を行う。
- ・課題解決に向けて、様々な場面や状況に応じて、自らの成長や学びを実感できるように、学習計画、学習内容、一単位時間における授業構成、ICT機器の活用、評価方法の検討を行う。

3 重点の設定理由

高等部は、小・中学部で培ってきた力を地域社会で発揮して、卒業後の生活で生かせる力を積み重ねていく時期であると考えます。

昨年度は、生徒が主体となって学びをつないでいく授業づくりとして、生徒の学びをつなぐための単元づくりや授業づくりに取り組んだ。生徒が身に付けた力を発揮する場を効果的に設定したことで、生徒が見通しをもって活動を進めたり、繰り返しの中で自信をもって活動に取り組んだりすることができた。しかし、生徒が必要感や達成感を感じる支援や振り返りの方法については課題が残った。

また、作業学習などの各教科等を合わせた指導ではICT機器を活用する機会が増え、手順表やこれまでの学習の記録をいつでも確認できるようになり、全体に共有することや、地域に自分たちの学習の様子を発信するツールとして活用することができた。しかし、各教科等を合わせた指導以外での授業での活用についてはまだ進んでおらず、活用の仕方について課題が残った。

そこで、昨年度までの成果と課題を受けて、学部研究の重点を上記の二点とした。自分の考えや気持ちを順序、筋道を立てて考える力や豊かに感じたりする力に課題があることを踏まえ、国語科を対象教科とした。生徒が自信をもって学んだり、学んだことを実感したりするための導入や振り返り、学習活動、支援の在り方について検討することで、国語科の授業の質の向上につながり、資質・能力を確かに育てることができると考える。また、ICTを効果的に活用した授業づくりを行うことで、生徒の学習意欲を高めるとともに、より学びを実感することができると考え、重点を設定した。

4 研究仮説

国語科を対象教科とし、目標や評価を明確にした単元・授業づくり、及び一単位時間の授業におけるめあてや振り返り、手立てなどを工夫しながら授業改善を行う。これらの実践を積み重ねていくことで、単元や授業の質が向上し、生徒一人一人が目的意識をもって主体的に学習活動に取り組み、学びを実感する姿を実現することができるだろう。

5 研究内容・方法

(1) 生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ①研究対象となる国語科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり
 - ・研究対象となる国語科の年間単元、及び小単元の検討と評価
 - ・他の学習場面との関連付け
- ②抽出生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善
 - ・学習グループにおける、抽出生徒の実態や目標の検討と整理
 - ・抽出生徒の定期的な評価と共有
 - ・抽出生徒の変容を受けた単元の改善

(2) 生徒が学びを実感できる授業づくり

- ①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った、一単位時間の授業の構成及び手立ての検討
 - ・一単位時間の授業の目標、及び評価の検討、改善

- ・生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿の明確化、定期的な共有
 - ・めあてと振り返りの在り方の検討と実施、改善
- ②研究授業と授業研究会の実施
- ・事前授業研究会、全校授業研究会の実施
- ③ＩＣＴ機器の効果的な活用方法と検討と実施
- ・学習活動におけるＩＣＴ機器の活用についての検討
- ④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定
- ・学部内で授業づくりに関する情報を共有する機会の設定
 - ・教材を展示し、見合う時間の設定

6 高等部研究計画

月	主な内容
4月	【研究日】 ・高等部研究の方向性の確認
5月	【研究日】 ・「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」の確認 ・国語科の重点事項の確認 ・ＩＣＴミニ研修（モニター、i P a d）
6月	【研究日】 ・抽出生徒の実態やねらいの確認 ・ＩＣＴミニ研修（実物投影機） 【単元・題材検討日①】 ・地域との絆プロジェクトについて
7月	【研究日】 ・抽出生徒の実態や変容の確認と単元の検討 ・めあてと振り返りの在り方についての検討 ・ＩＣＴミニ研修（電子黒板） 【単元・題材検討日②】 ・国語科の年間指導計画、前期実施の授業の見直し ・対象グループの単元・題材構想の検討
9月	【研究日】 ・第1回全校授業研究会の振り返り ・全校研究会に向けて①（単元構想の確認、検討） ・ＩＣＴミニ研修（フリーボード） 【単元・題材検討日③】 ・地域との絆プロジェクト前期振り返りと後期検討 【教材展示会】 ・国語科の教材を展示し、見合う
10月	【研究日】 ・全校研究会に向けて②（一単位授業の検討） ・ＩＣＴミニ研修（ロイロノート）
11月	【研究日】 ・抽出生徒の変容の確認 ・全校授業研究会に向けて③（模擬授業） ・事前授業研究会
12月	【研究日】 ・第2回全校授業研究会を終えて ・全校授業研究会に向けて④（模擬授業） 【全校授業研究会】 ・全校授業研究会授業提示、研究会
1月	【研究日】 ・学部研究のまとめ（成果と課題） 【単元・題材検討日④】 ・対象教科の単元題材評価と次年度に向けて
2月	【単元・題材検討日⑤】 ・地域との絆プロジェクト後期の振り返りと次年度に向けて
3月	【研究日】 ・次年度の研究に向けて

(1) 生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ・高等部全体で目指す姿を「生徒自ら課題に気付き、課題解決のための学びを活かす場面や方法が分かり、活かすことができたことを実感する姿」と確認し、目指す姿から、国語科における主体的に学ぶ姿や学びを実感する姿につながる手立てや指導方法を学部全体で確認した。

「生徒自ら課題に気づき、

- 課題解決のための学びを活かす場面や方法が分かり、

- 「活かすことができたことを実感する姿」

- ・課題解決につながる学習活動を繰り返し経験する。
- ・自分の思いや考えを広げたり、相手によりよく伝えたりすることができること、お互いのことを認め合い良好な関係を築いていくことができることなどを通して、「言葉のもつよさ」を実感する。

- ・年度始めに、国語科の年間指導計画を元に単元づくりを行った。全校授業研究会対象グループの授業では「単元・題材構想シート」を活用し、単元全体の目標と評価の確認や学習指導要領における目標・内容、小単元の検討と評価を行った（図1）。

【図1：単元・題材構想シート（一部）】

- 58 -

<成果：○ 課題：△>

○生徒の学びの実感につなげるために、ICT機器の有効的な活用や、題材の工夫などの学習内容を改善することができた。改善したことにより、話し合い活動が円滑に行われることや、共通の題材について全体で議論するなど、対話的な場面を多く設定することができた。

△単元の内容の前に、この単元を通して生徒に何を学ばせたいかを明確にする必要があった。そのためにも、学習指導要領における目標の内容の精査を年度始めに行うべきだった。

・他の学習場面との関連付けを行うために、「単元・題材検討シート」を活用して「地域との絆プロジェクト」や他教科との関連を繰り返し検討した。研究対象の国語科の学習の中で、年3回の「絆カフェ・ショップ」での販売や、鷹巣駅前の商店街でのプリンター設置やプリンター撤去などの学習とのつながりを意識できるよう、関連付けを学部全体で確認した。単元・題材検討日には追加・訂正を行った（図2）。

令和5年度 高等部 単元・題材検討シート

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全校行事		ロードレース 交通安全教室	運動会				しそ収穫（全校） 終業式	始業式 ロードレース
絆プロジェクト	絆カフェ ショップ						絆カフェ・ショップ （地域無関係①）	
	総合			北下高校 プリンター交換	プリンター設置		除草機・タイヤ	プリンター撤去
学級生単							集団意識、並ぶ、	
作業学習								実習
日生		場・状況に合った マナー・ルール、あいさつ トビのつかみ、見回り	相手の立場（相手）					
国語				手紙 文章			人へのやりとり 説明をしよう （メモ・目録・道順の調べ）	メモ 説明をしよう （メモ・目録・道順の調べ）

絆カフェ・ショップに向けて、国語科では、人とのやりとりの仕方や接客の際の言葉遣い、商品の説明をする際の語順について、関連して行うことを確認した。

【図2：高等部 単元・題材検討シート（一部）】

<成果：○ 課題：△>

○国語科の学習の中で、学校行事や「地域との絆プロジェクト」に係わる活動に関する内容を題材にすることで、生徒にとって身近なことや、経験したことのある事物の説明や感想を組み立てる学習を積み重ねることができ、生徒の課題解決につながった。

○全体を見通すことができたことで、研究対象以外の教科を見直すきっかけにもなり、内容を修正していくことができた。

△国語科の授業の中に多くの指導内容を盛り込む結果となり、国語科としての目標が曖昧になった場面があった。単元・題材検討シートで整理する中で、教科の目標を明確にし、国語科でおさえたい内容と他教科でおさえたい内容を見極める確認が必要だった。

②抽出生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善

・学習グループにおける、抽出生徒の実態や目標の検討と整理を、「抽出児童生徒 事例検証シート」で整理し、単元の学習内容の精査や定期的な評価、変容を受けた単元の改善を行った。3グループから1名ずつ抽出生徒を出し、定期的に他グループの学習内容の共有や抽出生徒の変容の共有を行い、有効な手立てを話合った。

＜抽出生徒Eの主な変容＞（図3）

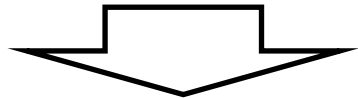
②ねらい 「何を、 どの段階まで？」	③学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返り方法は？」	④学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤単元の改善点 「何をどう変える？」
- 言葉を適切に使う説明をする。 →初めに話型や言葉を選ぶときのポイントを示しておき、少しずつ減らしていく。	「3ヒントゲームをつくってみよう」 - イラスト、写真の説明（3ヒントゲーム） ※3ヒントゲーム - テーマに沿ったヒントを個人で3つ考え、3つのヒントだけでテーマを相手に伝えるゲーム - めあての示し方 黒板に示す。 - 振り返りの仕方 例文を示して、振り返りのバリエーションを増やす。	期間 9月 ～ 10月 - テーマの説明のために記入するカードを、教師の助言に頼らず、自分から意欲的に書いていた。 - 自分の考えた3ヒントを発表する場面では、考えた理由も共に伝えることができるようになった。 - 発表場面の伝え方の一部が話し言葉になっていた。また、改善点のアドバイスの際も相手の意見を否定するような伝え方が見られた。	- 話し方の手立て →丁寧な言葉 - 相手のことを思いやった（相手に合わせた）話し方で話す。 - 話し合いの方法、手立て →相手の意見を尊重しながら話す。友達の意見を肯定しつつ自分の意見を主張する。 →複数の意見のまとめ方 →iPadアプリ「ロイロノート」を使用し、友達の意見を集約して話し合いをする。
- 相手の気持ちを考えて話す。場面に合った話し方をする。 →適切な話し方の話型を示す。	「高等部のよさを伝えよう」 - 行事や経験したことの説明 - めあての示し方 黒板に示す。 - 振り返りの仕方 プレゼンの改善点をグループで決めて発表する	期間 11月 ～ 12月 - 話し合いでは、友達と一緒に意見をまとめながら話し合いをしている。 - 今後の絆ショップの販売などに生かすことができると意識している。	

【図3：抽出生徒E 事例検証シート（一部）】

※実物は学部研究資料後半に添付

▲変容前の課題

- ・相手や場面にあった話し方、言葉の選び方が難しい。
- ・分かりやすく伝える、詳しく説明することが難しい。



変容のための手立て

学習の中で身近な物を説明する場面や、友達との話し合い活動を多く設定したことにより、発表の機会が増え、相手に分かりやすく伝えるために発表の内容や言葉のよさを考えることに前向きになった。相手の意見への同意だけでなく、授業の中で教師の質問に答えることで、具体的にしたり、言い換えたりするなどして、グループの意見を改善することができた。

◎見られた変容

12月に北秋田地域振興局で行われた「絆カフェ・ショップ」の事後学習の発表場面で、絆ショップの運営を通してよかったこと、改善点を発表する場面があり、教師から質問され、その理由を付け加えて全体の場で詳しく説明することができた（写真1）。



【写真1：事後学習 発表場面】

<抽出生徒Kの主な変容> (図4)

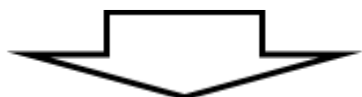
②ねらい 「何を、どの段階まで？」	③学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返り方法はとする？」	④学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤単元の改善点 「何をどう変える？」
・生活に使う言葉の意味や使い方、一般常識が分かる。 →毎時間脳トレを行う。 知らなかった単語を色分けして書きためていく。 必要に応じて説明を補足する。	・古今東西ゲーム (テーマに沿って) ・Webニュースの読み取り (いつ、どこで、何をした) <u>めあての示し方</u> <u>振り返りの仕方</u> 足りない語彙を書き出す	期間 4月～7月 ・正しく読み取れたが、文章を短くして書き出していた。 ・文中に正解があることの理解は概ねできている。 ・聞き取りが難しいときがある。	メモを取る学習 要点を聞き取る 視覚情報→聴覚情報へ
	・聞き取り 単語 → 短い文 → ニュースや少し長い文 メモの取り方 (必要である部分が分かりメモする) 実習に向けて (ロールプレイを交えて正しいメモの取り方を確認する。) <u>めあての示し方</u> <u>振り返りの仕方</u> 生徒同士で出題・解答し合う。	期間 8月～10月 ・メモがとれるようになってきた。 →文章の抜き取り、書き取りもできる 本人の実感から見ると十分 ・見本が有効だった。	見本は提示する (定型文、ポイントなど) 生徒同士のやりとりは続けている

【図4：抽出生徒K 事例検証シート (一部)】

▲変容前の課題

人と話すことが好きな生徒で、教師と話すことを楽しみにしている。経験のない事物、場所には興味がなく、その興味のなさ言葉が覚えられないことの原因になることがある。しかし、普段会話する分には問題がないため、語彙の少なさに対する本人の困り感が少ない。

また、メモを取る必要感がないため、大切なことやこの後必要なことをメモする場面になっても自身の判断でメモを取ることは難しく、メモの取り方を授業内で触れても日常生活や現場実習などに般化することが難しい。



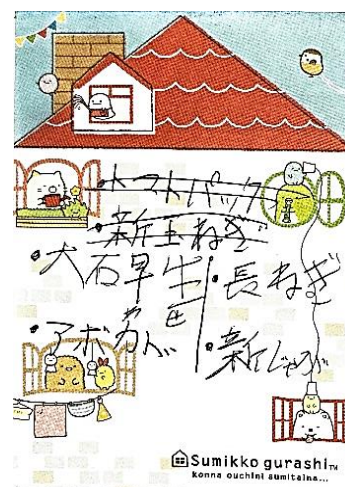
変容のための手立て

毎時間脳トレ (古今東西ゲームなど言葉がたくさん出てくる学習) を行い、知らなかった単語は色分けして書きためていく機会を作った。また、長い文章を聞くときのポイントやメモの取り方の例示をし、例題やロールプレイで実践を重ねた。

◎見られた変容

脳トレで出てきた場所の名前を日常生活で話すと、「その場所、知ってますよ！」と教師に話して、その場所についての思い出話やエピソードを話すことができるようになった。

スーパーでの職場実習の際、巡回に来た教師から初日に「メモを取るとよいですよ。」とアドバイスされてから、メモを取るタイミングを自分で判断し、品出ししなければならぬ品目を忘れないようにメモし、品出しに活用することができた。国語の学習の中でメモの取り方のポイントにあった「箇条書きで書く」ことができていた (写真2)。



【写真2：職場実習のメモ】

<抽出生徒Nの主な変容> (図5)

②ねらい 「何を、どの段階まで？」	③学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返り方法は？」	④学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤単元の改善点 「何をどう変える？」
- 語彙を増やす。 (気持ち、質問) - やりとりの仕方	- 友達からの質問→答え - 夏休みの過ごし方→やってみたいのは？ 行ってみよう？ - 修学旅行 - 好きなもの めあての示し方 振り返りの仕方	期間 4月～7月 主体的に取り組むことができていた。 (発表も◎)	実際の場面でどんな会話、やりとりをしたらよいのか選択する。 →ロールプレイ等 ↓ 休み時間等で適切に会話する姿が見られれば◎
	日常生活での会話のやりとり、質問 →授業に取り入れる。 めあての示し方 振り返りの仕方	期間 8月～10月 - 学習の流れが分かってきている。 - 挨拶、自然なやりとりが少しずつ出てきている。 - 言葉で伝える、解決するように頑張っている。	気持ちの表現を選択できる様にする。

【図5：抽出生徒N 事例検証シート（一部）】

▲変容前の課題

今まではやりたいことや要求を一方向的に伝えることや、言葉ではなく唸ったりすることで伝えることが多かった。徐々に他者に興味をもってやりとりをする様子や、双方向のやりとりができるようになってきたが、今年度になり、担任の女性教師と関わる際、関わりたい気持ちはあるが、急に近づいたり、腕を触ったりなど不適切な関わりをしていた。会話をすることが正しい関わりと言うことを伝えてもどう話してよいかわからない様子だった。

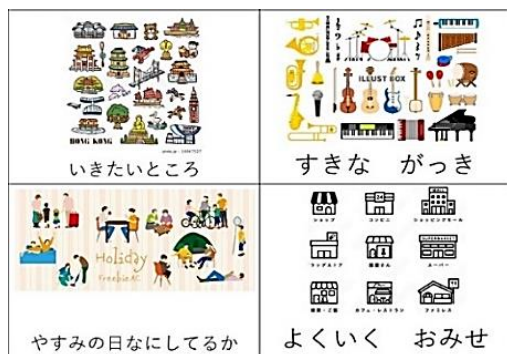


変容のための手立て

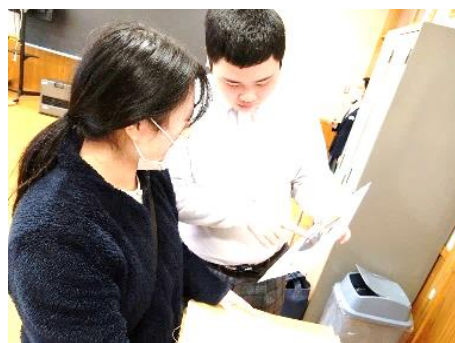
やりとりに特化した授業の流れを毎時間設定し、ロールプレイを重ねた。その中で「行きたい所」「休みの日の過ごし方」など「話題シート」を用意し、日常生活に使う会話のやりとりや、質問例を取り上げた（写真3）。また、気持ちの表現につながるように、「楽しい」「悲しい」などの選択肢を与えることで、今の気持ちを表現することにつなげようとした。

◎見られた変容

はじめは男性教師が話題シートを使用して会話の見本を見せたり、仲介したりした。徐々に一対一で不適切な関わりをせず、「話題シート」を指差しながら、「好きな楽器はなんですか？」と質問し、「トランペットが吹けますよ。Nさんは？」「キーボード」「何が弾けるの？」「校歌」「すごいね。」と自然と会話できる様子が見られるようになった（写真4）。



【写真3：話題シート】



【写真4：教師と話す様子】

<成果：○ 課題：△>

○定期的に生徒の変容や授業を振り返ることができたため、課題点に目を向け次の小単元の設定に生かすことができた。

○授業内の変容以外にも、他の場面での変容を定期的に指導者間で確認することができた。

△めあての提示方法や振り返りの提示方法の改善には至らなかった。具体的にどのように改善していけばよいのか、具体案を提示したり共有の際に他グループの有効だった提示方法を共有したりする必要があった。

(2) 生徒が学びを実感できる授業づくり

①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

- ・生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿の明確化、定期的な共有

全校研究会提示グループ全員の実態を「実態・課題 整理シート」を使用し、実態把握として、全員の実態を表で整理し、課題への具体的な手立てを確認した。定期的に見直し、学びの実感の具体的な姿が適切であるかを学部全体で確認した。国語科の授業以外の実態や学級担任からの視点など考慮すべき内容が多く確認でき、単元計画にも反映することができた(図6)。

実態・課題 整理シート (高等部国語科Aグループ)				
生徒名	出来ているところ	課題	改善案(手立て等)	学びの実感
A	・どんな活動も何をするか分かることと積極的に取り組むことができる。 ・自分から相手とコミュニケーションをとろうとする。 ・漢字は小3～6程度できる。 ・自分から進んで発表することができる。	・気持ちが沈むことがある。 (注意されたとき、極端に沈む) ・友達と仲良くしたいが遠慮してしまうことがある。 ・予定が分からないとき、初めての活動に不安あり ・書くこと自体が苦手？(身体の使い方の問題か) ・相手に合わせた言葉遣い・マナー ・相手との距離感 ・困ったとき、難しいときの相談 ・友達との関わり ・分かりやすく、詳しく伝えることが苦手 ・語彙力が少ない	・丁寧に説明し、本人が納得すると復活できるので、説明、寄り添い、励ましが必要。 ・相手に合わせた言葉を知り、適切にコミュニケーションをとる。 ・適切な話し方を知る(ポイントを理解)。 ・必要な言葉やポイントを知り、文章で書くときに活かす。	友達からの評価で課題に気づき、「こうやって伝えればいいんだ」とグループの意見に取り入れる。
B	・分からないとき、不安なときに相談できる。 ・自分の思いを文章に表す力は比較ある。 ・指示したことは気を付けて取り組もうとする。 ・時間がかかっても最後まで取り組むことができる。 ・関心のあることはたくさん会話できる。	・不安から自信をもてないときがある。 ・文章に表す力はあるが、適切さや文法が正確でない ・ときがある(分かりやすく伝える力が足りない)。 ・相手の気持ちを理解すること ・気持ちが浮き沈みすることがある。 ・相手や状況に応じて話すこと (話を聞いてほしいという思いが強く、一方的に話したり、人の話に割り込んで自分の話をすることがある。) ・適切な話し方、話す順序 ・語彙力が少ない	・適切な言葉や分かりやすく伝えるポイントを知り、文章にまとめる。 ・相手に分かりやすく伝えるポイントを知る。 ・様々な相手や状況について客観的に知る。 ・適切な言葉や分かりやすく伝えるポイント、順序について知り、活用する。	友達からの評価で課題に気づき、「こうやって伝えればいいんだ」とグループの意見に取り入れる。
C	・説明書の読み取りなど、自分が得意なことには素早く取り組むことができる。 ・見通しのある活動には、安定して取り組むことができ、苦手なこともやってみようとする。 ・興味のある内容の会話を楽しむ。 ・PCなどの操作が好き。 ・友達からのアドバイスを素直に認めることができる。	・相手の気持ちを考えた接し方 ・慣れた場面で言葉遣いが砕けすぎてしまう。 (初対面、慣れない場では極端に会話等の能力が下がる。) ・不安なときの対処法、困っているときに自分の気持ちを適切に伝えること ・見通しのない活動への不安感 ・生活経験の少なさ ・知らない人との活動、コミュニケーション ・細かい作業 (手先は割と器用だが、面倒臭がり(「細かい作業＝長く時間がかかる」と予想することができたため)) ・語彙力が少ない(ワンパターンな文章)。 ・言葉の意味を分からず使っていることがある。 ・友達に流されることがある。(共感力が強い) ・長時間の活動(特に室内、座学)	・相手に合わせた伝え方のポイントを知る。 ・パターン、話型を知る。語彙力を増やす。 ・分かりやすく伝えるポイント、言葉を知り、活用する。	伝える相手(中学部)を意識して、肯定的な表現に言い換える。 【国語科以外の場面で】 友達の意見を尊重した話し方で会話する。

【図6：実態・課題 整理シート (高等部国語科Aグループ)】

生徒の実態を踏まえて、改善案を具体的にあげた。また、グループで共通している課題には網掛けをし、共通した課題から単元・題材の検討につなげた。

課題	改善案(手立て等)	学びの実感
・気持ちが沈むことがある。 (注意されたとき、極端に沈む) ・友達と仲良くしたいが遠慮してしまうことがある。 ・予定が分からないとき、初めての活動に不安あり ・書くこと自体が苦手？(身体の使い方の問題か) ・相手に合わせた言葉遣い・マナー ・相手との距離感 ・困ったとき、難しいときの相談 ・友達との関わり ・分かりやすく、詳しく伝えることが苦手 ・語彙力が少ない	・丁寧に説明し、本人が納得すると復活できるので、説明、寄り添い、励ましが必要。 ・相手に合わせた言葉を知り、適切にコミュニケーションをとる。 ・適切な話し方を知る(ポイントを理解)。 ・必要な言葉やポイントを知り、文章で書くときに活かす。	友達からの評価で課題に気づき、「こうやって伝えればいいんだ」とグループの意見に取り入れる。

- ・一単位時間の授業の構成及び手立ての検討を行うために、国語科の指導グループ毎に「授業実践シート」を作成し、一単位時間の授業の構成から、学びの実感につながる手立てを整理した(図7、図8)。

令和5年度		授業実践シート(高等部 国語科)	
単元・題材名: 高等部のよさを伝えよう (10/13)		授業日時: 12月7日(木) 2校時	
学習グループ: 高等学部1-3年Aグループ		授業者: 伊藤千、港	
主な目標	・主な目標を1〜2点記入。 ・共通点や相違点を比較して適切な言葉を選び、内容を順序よく並べる。 ・自分や友達を選んだ言葉のよさ、課題に気付き、グループの意見をよりよいものにする。		
授業展開	【導入】 ・主な活動を記入。 ・本時の学習について確認する。(誰に、何を、どうやって) めあて: 友達からのアドバイスをもちに、よりよいプレゼンの内容を考えよう。 (示し方: 板書) 【展開】 ・主な活動を記入。 ○ プレゼンを考える ① 自分の意見を書く ② グループで話し合う ③ グループの意見をまとめる ④ プレゼンする ⑤ アドバイスをする 【振り返り/まとめ】 ・主な活動を記入。 ※何を、どうやって振り返る、まとめるかを具体的に記す。 ○ グループで振り返る ① プレゼンを改善する ② 改善したプレゼンをする → 改善点をまとめにする。 ③ プレゼンへの感想、振り返り → 感想を紹介する。 学びの実感につながる手立て ・プレゼンを受け、ホワイトボード上に伝えたところ、伝わりやすかったことを書き込む。 ・改善しやすいようにアドバイスを短冊に書く。 ・改善点が分かりやすいように、どのように改善したのか板書する。 ・改善して良かったこと、変わったこと、気づきを生かすように感想を紹介する。		
評価の視点	・主な目標に即した評価の視点を記入。 ・共通点や相違点を注目してより高等部のよさを伝える言葉を選んだか。 ・自分や友達の選んだ言葉のよさや課題に気付き、アドバイスをもちにグループの意見をよりよいものにする。		
次時に向けて	・授業を振り返り、次時も継続する点や改善点などを記入。 ・テーマが明確になったか、考えるのに時間がかかったか。 ・必要な活動を精選する、資料を事前に準備する。よりよいものにしたい。 ・発表用iPadがあること。 ・自分の考えを書くのと同時に時間がかかった。宿題で考えての内容の検討をする。 ・振り返りの仕方検討する。		

【図7: 授業実践シート】

改善前	・共通点や相違点を比較して適切な言葉を選び、内容を順序よく並べる。 ・自分や友達を選んだ言葉のよさ、課題に気付き、グループの意見をよりよいものにする。
改善後	・自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選んだり、理由や事例を付け加えながら内容を順序よく並べたりする。 ・お互いの意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、グループの意見に生かそうとする。

【図8: 目標の改善前、改善後】

<成果: ○ 課題: △>

- 全指導グループで作成したため、共通の手立てや有効だった手立てを学部で確認することができた。また、単元計画と授業実践シートを合わせて使用することで、一単位時間の授業の目標及び評価を学部で検討、改善することができた。

- 一単位時間の構成を授業前に視覚化することで、組み立てを考えることができ、時間配分の検討や学習内容の精査につながった。
- 学びの実感につながる手立てを整理することができたため、個の具体的な学びを実感する姿を合わせて見取ることができた。
- △毎時間記入するシートではなかったため、単元を通して生かすことができなかった。

<成果：○ 課題：△>

- 課題から、学びを実感する姿の具体的な姿も学部全体で確認することができた。
- 当該グループの生徒の共通している課題や伸ばしていきたい力を整理することができた。
- △少人数学習であれば一人ひとり実態把握をできるが、大人数の集団になると同じように実態把握をすることは難しい。
- △課題を整理していく中で、国語科だけではなくそれ以外の教科、指導場面で改善案を考えることができた。実態・課題整理シートを他教科の実態把握でも使用し、より生徒の課題に迫ることが必要である。

②研究授業と授業研究会の実施

- ・他学部の全校授業研究会や、高等部では11月に事前授業研究会、12月に全校授業研究会を実施し、協議で挙げた点をもとに今後高等部職員で取り入れていきたいことや充実させたいことを具体的に話し合うことができた（写真5）。

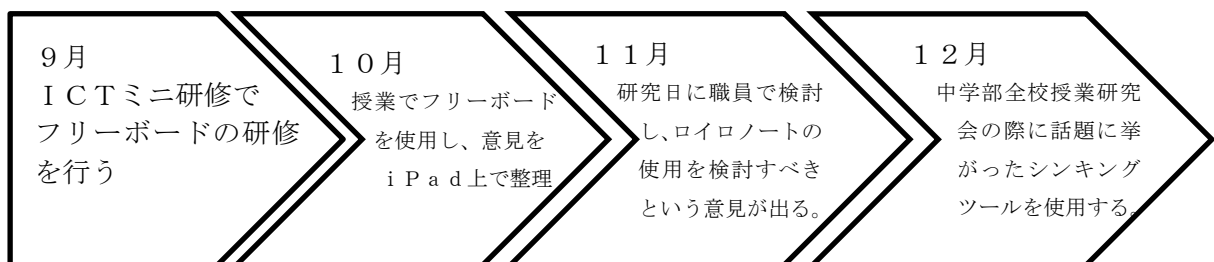


【写真5：事前研究会
事後研究会の様子】

<成果：○ 課題：△>

- 他学部の全校授業研究会では、ロイロノートのシンキングツールを取り入れるなど、ロイロノートの使用方法の再考をすることができた。
- 事前授業研究会を行ったことで、授業者だけではなく学部全体で授業について考える時間を作ることができた。
- 事前授業研究会の事後研では、めあてへの立ち返り、本時で学んだことの実感、その活かし方が分かる振り返りが話題に挙げた。ロイロノートのアンケート機能や、感想を書く際にめあてを意識することができるような言葉掛けなど改善案を挙げることができた。また、板書も見直すことができ、必要な情報を精査した板書にまとめることができた。
- 一単位時間で思考からまとめまで授業を展開することや、自宅で自分の考えをまとめてくる時間をもつために、iPadの持ち帰りを（課題を宿題として）活用することができていた。
- △板書とICTのバランスが課題として残った。あくまでもロイロノートはノート（机上のもの）として捉えた方がよいという意見が協議でもでていた。
- △国語科として何を学ばせたいかを明確にできていなかった。ねらいと内容の絞り込みが必要である。
- △生徒が本時で「何を学んだか」「何が身に付いたか」が分かるような授業にする必要がある。

③ICT機器の効果的な活用方法の検討と実施（図9）



【図9：ICT機器活用方法の検討と実施の流れ】

単元の初めには、意見を挙げて整理するのに効果的な iPad アプリ（フリーボード）を使用していた。iPad の操作に慣れている生徒達は記述で書くより手軽に意見を出出することができるようになった。また、画像等も補足で付けるなど個人で工夫して学習に取り組む様子が見られた（写真 6、写真 7）。



【写真 6：フリーボードを操作する生徒の様子】



【写真 7：実際のフリーボードの画面】

3つのヒントで相手にお題を伝えるクイズに取り組んだ。カードにお題に関するヒントを挙げていき、その中から3つ選び、友達に説明する優先順位を指で画面上に書いた。

単元を進めていく中で、フリーボードは生徒同士の情報共有には不向きなことが分かり、共有することに利便性のある iPad アプリ（ロイロノート）の活用に切り替えた。個人で考えた内容を一つの iPad に集約し、話し合い活動に活用することができた。また、ロイロノートの機能にあるシンキングツールを使用することで、授業のねらいに迫ることができた。発表場面ではモニターにミラーリングを行い、ロイロノート上で考えた内容を全体の場で発表することができた。

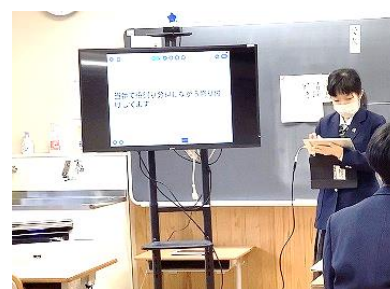
（写真 8、写真 9、写真 10、写真 11）



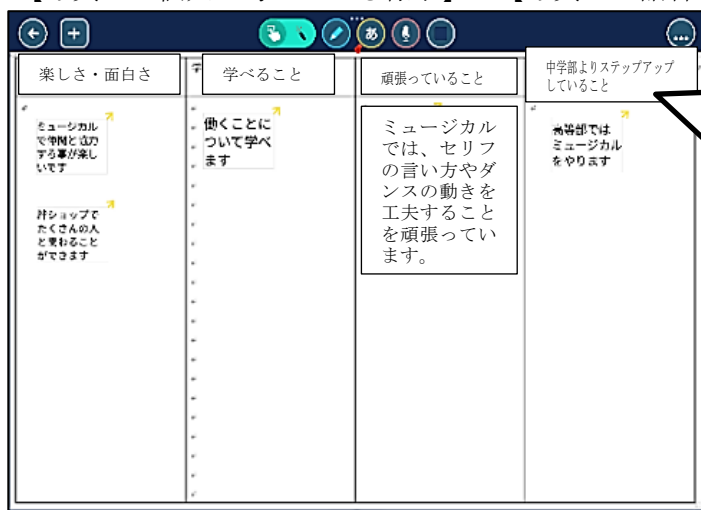
【写真 8：個人で考えている様子】



【写真 9：話し合い場面】



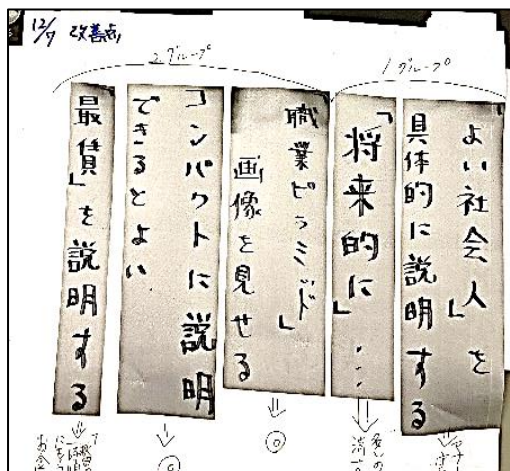
【写真 10：発表場面】



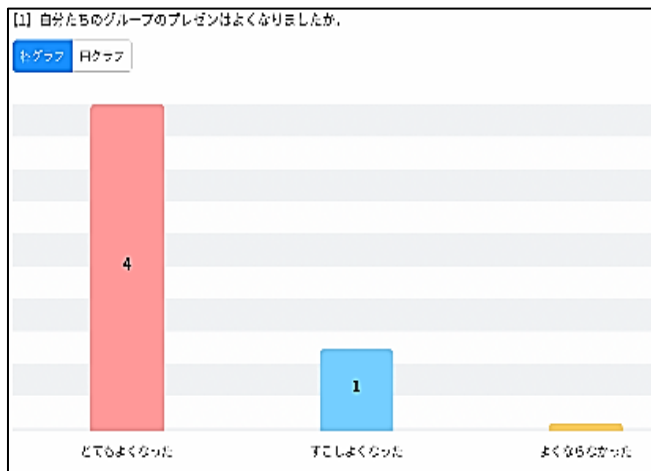
高等部の活動の中にある「高等部のよさ」を生徒が主体的に考えることができるように、「よさ」になる「楽しさ・面白さ、学べること、がんばっていること、中学部よりステップアップしていること」の4点を観点としてあげ、シンキングツールで生徒に提示するようにした。

【写真 11：実際のロイロノートの画面】

振り返り場面で、めあてに立ち返って振り返りできるようにロイロノートのアンケート機能を用いた。全体がめあてに対して達成度をどのように考えているのか集計し、授業の最後にT1が紹介した。アンケート集計結果から、学びの履歴にある「具体的に説明する」といった改善案を見て、「自分の経験したことを例に出したり、具体例をあげると分かりやすくなった」と前時の学びを本時の学びに生かそうとする姿が振り返りでみられた（写真12、写真13）。



【写真12：学びの履歴】



【写真13：アンケート集計画面】

<成果：○ 課題：△>

- 職員でICTミニ研修を定期的に行うことで、研修で行ったiPadアプリを授業の中で活用してみようとする様子が多く見られた。
- 学部全体でロイロノートの使用方法の検討をできたことで、様々な改善案が出て、授業の改善につながった。
- 生徒たちが積極的に使用する様子が見られた。
- 宿題で考えてきた際に、「この意見を書いた理由は何ですか？」と聞くと理由を説明できる生徒が多数であった。家庭学習であっても根拠をもった意見を挙げようとする様子を見ることができた。
- △ICTミニ研修を行ったが、教師の間で技術の差が現れ、苦手意識のある人や必要感を感じず、日常的に活用できない人もいた。
- △教師が話している際や友達が発言している際にiPadを触っている様子が見られた。話合いのルールやiPadの使用のルールを授業前に確認すべきである。
- △iPadが小さいため、3人以上の話合い活動には向いていない。小グループが2つ程度であればモニターを使用して小グループ全員がちゃんと見えるようにする必要がある。

④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定

- ・学部職員で国語の教材を見合う会を行い、他グループの教材を見る機会を設定した。

(写真14、15)



【写真14：教材全体】



【写真15：教材を共有する様子】

＜成果：○ 課題：△＞

○普段他グループの教材を見る機会をとることができなかったが、お互いの教材を見合うことで、どんな学習をしているのか共通理解することができ、各自の教材づくりのヒント、授業づくりの参考となった。

△今年度は1回しか開催できなかったため、単元の切り替わるタイミングや、長期休み毎など多く回数を設定できると、授業づくりの参考になる。

8 成果と課題のまとめ

成 果

- ・国語科の学習と、「地域との絆プロジェクト」や各教科との関わりを「単元・題材検討シート」で整理したことにより、生徒にとって経験したことのある事物の説明や感想を組み立てる学習を積み重ねることができるような単元づくりに生かすことができた。
- ・題材の工夫などの学習内容を改善したことにより、生徒同士の話し合い活動が円滑に行われることや、共通の題材について全体で議論するなど、対話的な場面を多く設定することができ、自分の意見に自身をもって発表することができるようになり、学びの実感につながった。
- ・一単位時間の構成を授業前に視覚化することで、時間配分の検討や学習内容の精査につながり、学びの実感につながる手立てを整理することができた。
- ・学習活動におけるＩＣＴ機器の活用によって、生徒が意欲的に自分の意見を伝えたり、相手によりよく伝わる方法を考えたりすることができた。また、家庭学習でiPadを持ち帰るなど新たな取り組みを行い、生徒が帰宅後に授業について思い出したり、振り返ったりするきっかけになった。

課 題

- ・めあての提示方法や振り返りの改善には至らなかったため、具体的にどのように改善していけばよいのか、他グループの有効だった提示方法を共有したり、他学部の授業を参考にしたりする必要がある。
- ・生徒が本時で「何を学んだか」「何が身に付いたか」が分かるようにするため、国語科として何を学ばせたいかを明確にするために学習指導要領における目標の内容の精査をし、ねらいと内容の絞り込みをしていきたい。
- ・ＩＣＴ機器の活用と板書のバランスや、iPadを使用する際のルールなど決めておいた方がよいことが課題に挙がったため、他教科での活用も含めて学習活動におけるＩＣＴ機器の活用の際の基板を整えていきたい。

高等部国語科「主体的に学んでいる姿」「学びを実感している姿」（各グループ）

グループ	主体的に学んでいる姿	学びを実感している姿
A グループ	・自分でやってみようとする姿 ・学ぶ必要性を考えて行動する姿 ・相手に合わせて話す姿	・学んだことを次の学習に生かそうとする姿 （次回も大丈夫と思える経験） ・他の場面でも学んだことを活用しようとする姿
B グループ	・やりとりを通して、新しい言葉や表現方法を見つける姿	・相手に自分の思いを伝えようとする姿 ・他の場面で学んだことを活用しようとする姿
C グループ	・選択肢の中から、自分の意思で選ぶ姿 ・自分や友達の興味がある事物の意味や内容を知らうとする姿 ・見本を参考に、友達と質問の受け答えをする姿	・やりとりの中で、自分の思いを伝えようとする姿 ・経験を他の場面で生かそうとする姿
D グループ	・自分から手を伸ばして操作しようとする姿	・発表場面などで、学習の成果を生かす姿
E グループ	・やりたいことを自分なりの表現の仕方では伝えようとする姿	・知識を学びに生かそうとする姿

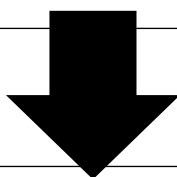
令和5年度 高等部 国語科における大切にしたいこと

【国語科における実態】

- ・語彙が不足や言葉の意味の理解が不足している。日常生活で誤った使い方や伝え方のため、友達とトラブルになるときがある。
- ・文章を自分で考えて読んだり、考えて書いたりすることに課題があるため、物事が正確に伝わらないことがある。
- ・友達や教師と話し言葉で関わるが多く、場面に応じた敬語を適切に使うことができないときがある。

【学部で目指す姿など】

- ・日常会話や敬語など社会生活に必要な知識や語句を学び、自分の言葉で表現したり伝えたりする姿。
- ・話し言葉と書き言葉の違いなど、表現したり理解したりするために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使う姿。



【学部で大切にしたいこと】

◎「言葉による見方・考え方」

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

- ・他者に自分の意見や思いを伝えるときに、互いの考えを尊重して、言語を通して理解したり表現したりする。

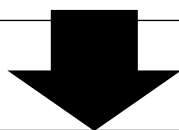
友達同士で話している普段何気なく使っている話し言葉を捉え直し、時と場合に応じた伝え方に言い換える。

◎「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱を意識した単元構成

令和 5 年度高等部国語科 各グループにおける大切にしたいこと

【国語科における実態】

- ・ A グループ：学習指導要領中学部 2 段階～高等部 1 段階程度
語彙や一般常識の理解が少ない。
- ・ B グループ：学習指導要領小学部 3 段階程度
文章を自分で考えて読んだり、考えたり書くことができない。
→物事が正確に伝わらない。
- ・ C グループ：学習指導要領小学部 2 段階程度
「〇〇をしている」という文章を聞いて、その場面の写真を選ぶことができる。
- ・ D グループ：学習指導要領小学部 1 段階程度
言葉は分かっているが、色や物の名前は分かっていない。
- ・ E グループ：学習指導要領小学部 2 段階程度
平仮名は分かっているが、文字を見ても読めない。
行動と言葉はつながっている。



【グループで大切にしたいこと】

学習指導要領解説 P. 45～46 を各グループの実態に合わせて取り組む。

- ・ A グループ：「言葉がもつよさ」「言語感覚」
相手や目的、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるか直感的に判断する。
- ・ B グループ：「伝え合う力」
語彙を増やし、言語を通して理解したり表現したりする力を高める。
- ・ C グループ：「伝え合う力」
相手がいる状況で、相手からの質問を聞くことで質問に合った解答をしたり、自分から質問してそれに答えてもらう経験を通して人とのやりとりを楽しむことを感じてほしい。
- ・ D グループ、E グループ：「言語感覚」
聞いたり読んだり、具体物に触れたりする感覚の中で、言葉と物や行動がつながる。

【單元・題材名】 どの部分に伝えよう

1 段階【知・技】ア (ア) (イ) (工)

A 聞くこと・話すことイ、ウ、エ、オ
B 書くことア、ウ、エ、オ

【單元・題材の目標】

意見を伝え合うときや発表するときの話し方を知り、相手の意見を尊重した言葉の使い方を理解する。

(附·知)

- ・お互いの意見の共通点や相違点に注目して、言葉を選んだり内容を順序よく並べたりする。(思判表)

・お互いに意見を伝え合い、自分や友達が選んだ言葉がもつよさや課題に気づき、自分の意見に生かそうとする。

24

【評価の視点】

・相手に意見を伝えるときに、相手の意見を尊重した適切な言葉の使い方ができたか。

・自分や友達が選んだ言葉を共通点や相違点に注目して、適切な言葉を選んだり、文章にまとめたりすることができたか。

- ・お互いの意見を伝え合い、自分や友達が選んだ言葉のよさや課題を見付けて、グループの意見をよりよいものにできたか。

指導計画

期間	主な目標	主な内容	学びの成果につなげる工夫
9～11月	• 敬語や具体例を挙げるなど、相手に伝わるように発表するときの話し方を理解する。 • 適切な言葉を選んだり、内容を順序よく並べ替えた。 • 適切な言葉を参考にして考えたりする。	• 3ヒントクイズを作る。	• ポイントを伝え、確認する。 • iPadのフリーボードを活用し、思考を整理する。
11～12月	• 話し合うときの相手の意見を尊重した言葉の使い方に注意して理解する。 • お互いの意見の違いに気づく。 • 自分のよさや課題を認めて、自分やグループの意見に生かす。	• 自分たちが経験した出来事について話す。	• グループ活動

今後の展開

期間	主な目標	主な内容	学びの姿勢に つなげる工夫
9～11月	• 略語や身体例を挙げるなど、相手に伝わるように発表する • 話し方を理解する • 適切な言葉を選び、適切な順序で伝える • 適切な言葉や考えたり友達のを参考にしたりして考える	• 3ヒントクイズを作る。	• ポイントを伝え、確認する。 • iPadのフリーボードを使用し、考えを整理する。
11～12月	• 話し合うときの相手の意見や意見を尊重し、理解する • 互いの意見の違いを認め、文章をまとめる • 自分や友達の選んだ言葉のよさや、誤解を招いて自分の意見に生かす。	• 自分たちが知っている物や経験した出来事について紹介する。	• 意見の共通点や相違点がいかりやすいように、同じテーマを提示する。 • グループ活動 • ロールノートを活用し、1台のiPadに意見を集約して話し合い活動をする

学習の様子
改善事項等

ICTの活用

・個人で思考を整理した後、共有するために iPad のアプリ（口イロノート）を活用する。

○お題の決定

・グループ毎で別々のテーマに取り組むのではなく、同じテーマにすることで、振り返りの際の比較や、共通点や相違点が分かりやすい。

対象児童生徒 高等部 3年 氏名 E		主体的に学ぶ姿：相手に合わせて話す姿、学ぶ必要性を感じて行動する姿 学びを実感する姿：他の場面でも活用できる姿（次回に生かせる経験をする）	
① 実証	② 学びの振り返り 「何を、どのくらい、どの程度まで？」	③ 学習の振り返り 「何を、どのように？」	④ 学習の振り返り 「主体的に学んでいくか？」
【学方全般における良さ・課題】 ・どんな活動においても、比較的意欲的に取り組む。見通しをもっている活動については、積極的に教えるなどする。 ・友達の良いところを見つけて認め、真似することが出来る。 ・予定を把握して動く、必要なことを考えて行動できる。 △他者の気持ちを考え、発言、行動はまた難しい。 △相手や場面に合った話し方、言葉の運び方が難しい。その結果、相手に嫌な思いをさせてしまうときがある。	② 学びの振り返り 「何を、どのくらい、どの程度まで？」 ・読書力を増やしたい。 →調べ方を身に付ける。 →自分が知りたい情報をたどり着く方法を選択する。 ・必要な箇所を正確に読み取る。 →問題文を正しく読み取り、問いに答える。	③ 学習の振り返り 「何を、どのように？」 ・「国語辞典・漢字辞典で調べよう」 ・使っている辞書を使う意味、インターネットの使い分け ・めあての示し方 黒板に文章で示す。 振り返りの仕方 ・いろいろな文章を読む ・新聞、説明書の読み取り ・めあての示し方 黒板に文章で示す ・穴埋め 振り返りの仕方 一言で書く。	④ 学習の振り返り 「主体的に学んでいくか？」 ・分からない語句を見付けると国語辞典を持っていくなど、自分から調べる習慣が付いてきた。 ・辞書やインターネットを使い分ける中で、調べ方の違い、よさに気づき始めた。 ・めあての理解が不十分なきがあり、教師が黒板に書いて提示するだけでは理解がつかないと感じた。 ・長い文章を読む際に、印を付けながら読む力がついた。 ・ニュースや家庭の説明書を正しく読み取ることができたため、将来生活する上で必要な知識を得ることができた。 ・振り返りを一言で書く形式にしたが、何を書いたらよいか悩む生徒や、毎回同じ感想を書く生徒がいた。
【対象教科におけるよさ・課題】 ・小3、4年生程度の読み書きができる。 ・興味・関心があることについて話したい。たくさん話したい。 ・辞書、タブレットを使用して検索することが出来る。 ・雑誌等から情報を探し集めることが出来る。 △語彙力が少ない。 △言葉の意味を分かつて使っていること、伝える、詳しく説明することが難しい。	② 学びの振り返り 「何を、どのくらい、どの程度まで？」 ・言葉を通じ、相手に話したい。 →初めに話型や言葉を準備する。 →選ぶときのポイントを示しておく、少し減らしていく。	③ 学習の振り返り 「何を、どのように？」 ・「3ヒントゲームをつくってみよう」 ・イラスト、写真の説明（3ヒントゲーム） ※3ヒントゲーム テーマに沿ったヒントを個人で3つ考え、3つのヒントだけでテーマを相手に伝えるゲーム ・めあての示し方 黒板に示す。 振り返りの仕方 例文を示す、振り返りのバリエーションを増やす。	④ 学習の振り返り 「主体的に学んでいくか？」 ・テーマの説明のために記入するカードを、教師の助言に頼らず、自分から意欲的に書いていた。 ・自分の考えた3ヒントを発表する場面では、考えた理由も共に伝えることが出来るようになった。 ・発表場面の伝え方の一部が話し言葉になっていった。また、改善点のアドバイスの際も相手の意見を否定するようない伝え方が見られた。
	② 学びの振り返り 「何を、どのくらい、どの程度まで？」 ・相手の気持ちを考え、話したい。 →適切な話し方の話を示す。	③ 学習の振り返り 「何を、どのように？」 ・「高専部のよさを伝えよう」 ・行事や経験したこと、説明 ・めあての示し方 黒板に示す。 振り返りの仕方 フレゼンの改善点をグループで決めて発表する	④ 学習の振り返り 「主体的に学んでいくか？」 ・話し方の手立て →丁寧な言葉 相手に合わせて話した（相手に合わせて話した）話し方で話す。 ・話し方の方法、手立て →相手の意見を尊重しながら話す。友達の意見を肯定しつつ自分の意見を主張する。 ・複数の意見のまとめ方 →iPadアプリ「ロイロノート」を使用して、友達の意見をまとめて話し合う。

【ICT機器活用シート】

高等部 国語科 1・3年 Aグループ

ICT機器活用場面①（10月 4日）	
活用のねらい	- 生徒が考えを視覚的に整理するため。 - 全体で意見を共有するため。
対象、機器活用場面	- 展開の場面で、生徒がiPadアプリ「フリーボード」を活用する。 - 生徒が「フリーボード」を使い、お題に合わせたヒントを挙げていき、順番を並べ替えることや、書き込みをしてヒントの優先順位をつけていた。
学習の様子	
改善点	話し合い活動の際に、生徒同士が考えを共有できるように、ロイロノートを活用する。

ICT機器活用場面②（11月 20日）	
活用のねらい	生徒同士が意見を共有するため。
対象、機器活用場面	- 展開の場面で、生徒がiPadアプリ「ロイロノート」を活用する。 - 生徒が「ロイロノート」を使い、個人の意見を教師のiPadに集約し、意見を伝え合うことや、共通の意見をまとめることができた。
学習の様子	
改善点	全体で共有する話し合いのヒントカードや、学びの履歴にロイロノートを使用し、必要に応じて生徒が見ることができるようにする。

高等部 1・3 年 A グループ 国語科 学習指導案

日時 : 12月19日(火) 2校時

場所 : 高等部 1 年教室

生徒 : 高等部 1・3 年生 5 名

指導者 : 伊藤千聡 (T1)、港拓哉 (T2)

1 単元名 高等部のよさを伝えよう

2 単元の目標

- (1) 意見を伝え合うときや発表するときの話し方を知り、相手の意見を尊重した言葉の使い方を理解する。 (知識・技能)
- (2) お互いの意見の共通点や相違点に注目して、言葉を選んだり内容を順序よく並べたりする。 (思考力、判断力、表現力)
- (3) お互いに意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉がもつよさや課題に気付き、自分の意見に生かそうとする。 (学びに向かう力、人間性)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学習グループは高等部 1 年男子 2 名、1 年女子 2 名、3 年女子 1 名の計 5 名で構成されている。卒業後の生活に向け、社会生活に必要な知識や語彙を学び、自分の言葉で表現したり伝えたりすることを国語科の目標とし、主に高等部国語科 1 段階の内容を学習している。国語科の学習意欲の高い生徒が多く、積極的に発表したり、自分から国語辞典で調べたりする姿が見られる。話合いなど順序立てて話す経験が不足しており、自信をもって活動することが難しい場面もあるが、繰り返し活動し見通しをもつことで少しずつ自信をもって活動できることも増えてきた。

高等部では、年 3 回の絆カフェ・ショップでの販売や、鷹巣駅前の商店街でのプランター設置など、地域の人と関わる学習を多く行っている。その中で地域の人との会話や、困ったときや難しいとき、不安なときなど、自分が経験したことのない場面での適切な言葉や話し方が分からず、自分の気持ちを自分の言葉で自信をもって伝えられない姿が見られる。また、日常生活の中では相手の気持ちや状況を考えて発言、行動することが難しく、友達とトラブルになる生徒もいるが、興味・関心のあることや自分が知っていること、経験したことを話題に友達や教師との会話を楽しんでいる。

(2) 単元について

本単元は、生徒にとって身近な来年度高等部に入学する中学部生に、高等部に関する自分たちが知っていることや経験したことのよさを伝える活動に取り組む。よさを伝える手段として、プレゼンを扱い、敬語の使い方や具体例を挙げる、相手に伝わるように発表するときの話し方を身に付けさせたい。3 ヒントゲームからステップアップしプレゼンに取り組むことで、発表のときの話し方を学ぶ経験の積み重ねになると考える。プレゼンの内容を考える活動は、発表相手である中学部生に高等部のよさが伝わるように適切な言葉を選んだり、伝わる話し方を意識したりすることにつながると思う。

また本単元では、2 つの小グループでの話合いに取り組み、発言した人の気持ちや話合いの状況を推測して適切な言葉を選んで伝えたり、相手グループの意見を尊重したりする経験を重ねる。小グループでの話合いは、自分と友達の意見に共通点や相違点があること、自分や友達を選んだ言葉がもつよさや課題に気付くことで、話し合う相手の意見を尊重した言葉遣いでアドバイスをし、自分の意見に自信をもって発表することができると考える。さらに、卒業後の生活を見通し、普段の友達や教師との関わりの中で、伝える相手や目的に合わせた言葉選びや使い方、内容を順序よく並べて伝える力も伸ばしていきたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導に当たって

<学習活動>

- ・生徒が見通しをもって取り組むことができるように、活動の順番や流れを一定にして繰り返し行う。(主)
- ・生徒がお互いに評価し合うことができるように、考えたことを発表し合い、伝わったところを共有したり、よりよく伝えることができるようにアドバイスしたりする時間を設ける。(対)
- ・よりよく伝えることができるように、アドバイスをもとに改善したいことをグループで話し合う時間を設ける。(深)

<場の設定、教材・教具>

- ・見通しをもって学習に取り組むことができるように、活動の流れや時間を黒板に掲示する。(主)
- ・相手意識や目的意識をもって取り組むことができるように、誰に、何をプレゼンするのか確認する。(主)
- ・自分の意見を考えるときの参考になるように、今までの学習の過程を掲示したり、参考になる資料を用意したりする。(主)
- ・自分の意見を出したり、意見を整理したりしやすいように、i P a dのアプリ「ロイロノート」を活用して、意見の順序を入れ替えられるようにしたり、必要な意見を選択したりできるようにする。(主)(深)
- ・話し合いで意見を伝えやすく比較しやすいように、小グループで1台のi P a dに意見を集めて見ることができるようにする。(対)
- ・自分から意見を伝えやすいように2つの小グループでの話し合いを設定する。話し合う相手の意見を尊重して話し合いや発表、アドバイスができるように、必要に応じて話し合いヒントカードを示す。
(主)(対)
- ・話し合いでお互いのグループの意見を視覚的に共有しやすいように、話し合いでまとめた意見をモニターに掲示する。(主)(対)

<教師の働き掛け>

- ・自分や友達の意見の共通点や相違点に注目して話し合いができるように、キーワードとなる言葉を問い掛ける。(主)(対)(深)
- ・生徒が意欲をもって活動に取り組むことができるように、生徒の取組を称賛する言葉掛けをする。
(主)

4 指導計画(総時数 13時間)

学習活動	ねらい	時数
○3ヒントゲームをやってみよう ・2種類のヒントを比べる	・敬語や具体例を挙げるなど、相手に伝わるように発表するときの話し方を知る。(知・技)	1時間
○3ヒントゲームをつくってみよう① ・同じテーマで問題をつくる	・敬語や具体例を挙げるなど、相手に伝わるように発表するときの話し方を理解する。(知・技) ・分かりやすく説明するために、適切な言葉を選んだり、内容を順序よく並べ替えたりする。 (思・判・表)	2時間
○3ヒントゲームをつくってみよう② ・友達と話し合って、問題を改善する	・自分や友達の意見の共通点や相違点を比べて、適切な言葉を選んだり、内容を順序よく並べ替えたりする。 (思・判・表) ・分かりやすく説明するために、適切な言葉を考えたり友達の意見を参考にして考えたりする。(学・人)	2時間
○高等部のよさを伝えよう① ・相手を尊重した話し合いの仕方 ・意見の違いに注目する	・話し合うときの相手の意見を尊重した言葉の使い方について理解する。(知・技) ・お互いの意見の違いに気付いて、適切な言葉を選んだり、文章をまとめたりする。(思・判・表)	4時間

○高等部のよさを伝えよう ② ・よりよいプレゼンにするために	・お互いの意見の共通点や相違点を比較しながら適切な言葉を選び、内容を順序よく並べたり、理由や事例を付け加えたりする。(思・判・表) ・お互いの意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、自分やグループの意見に生かそうとする。(学、人)	4 時 間 (本時 3/4時間)
--------------------------------------	---	------------------------

・次単元で高等部のよさを伝えるプレゼン動画を作成し、来年度高等部に入学する中学部生に見てもらう機会を設定する。(1・2月)

5 本時の計画（総時数 12 / 13）

(1) 全体の目標

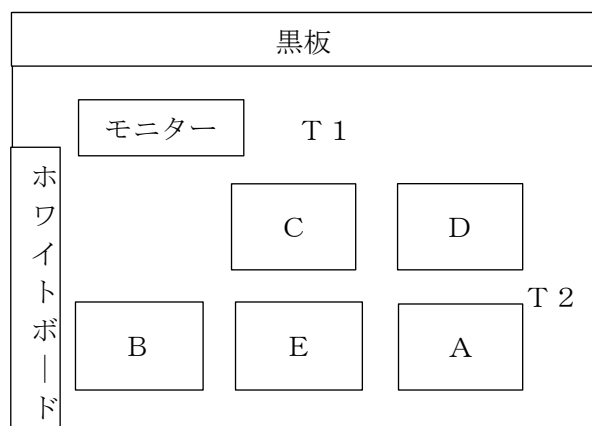
- ・自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選んだり、理由や事例を付け加えながら内容を順序よく並べたりする。(思・判・表)
- ・お互いの意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、グループの意見に生かそうとする。(学、人)

(2) 個別の目標

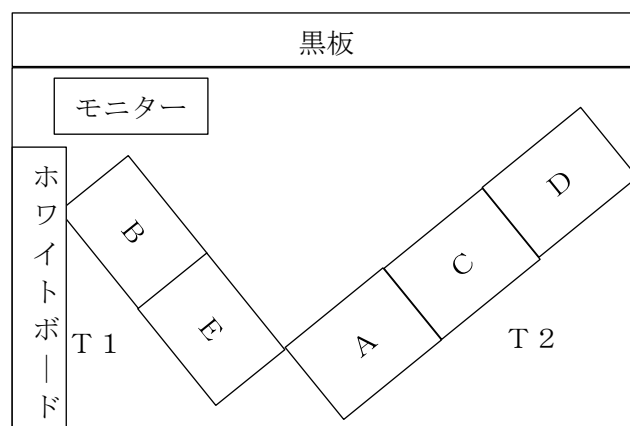
氏名	生徒の実態、学習の様子	個別の指導計画の目標（年間）	単元の目標	本時の目標
A	見通しがもてると、どんな活動も積極的に取り組む。前単元の説明書の読み取りでは、問題で問われていることに印を付けると読み取りやすいことを学び、自分から印を付けて読むことができるようになった。自分から友達とコミュニケーションをとろうとするが、遠慮したり、逆に友達があだ名で呼んだり距離がよめないことがある。プレゼンの内容を考える学習では、「よさ」のポイントに沿って必要な内容を選ぶことができるようになってきており、複数の意見から共通している内容をまとめることができる。	・説明する相手に応じて、話す内容を整理して、相手に分かりやすいように伝える。	・意見を伝え合うときの話し方を知り、相手の意見を尊重した言葉の使い方を理解する。(知・技) ・自分や友達の意見の共通点や相違点に注目して、伝えたい内容を整理する。(思・判・表) ・自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて自分やグループの意見に生かす。(学、人)	・自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に注目して内容を整理する。(思・判・表) ・自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、グループの意見に生かそうとする。(学、人)
B	分からないことがあるとき、不安なときに自分から相談できる。自分の思いを文章で表す力がある程度身に付いているが、敬体と常体が混ざったり、一文が長く分かりにくかったりすることが多い。話を聞いてほしい思いが強く、一方的に話したり、人の話に割り込んで話したりして、相手や状況に応じて話すことが難しいことがある。話合いの場面では、複数の意見を比べて共通している内容を概ね理解できる。今後は相違点のある意見からよりよい言葉を見付けたり、内容を順序よく並べたりする経験を重ねる必要がある。	・物語から、相手の気持ちや場面の情景を読み取る。	・意見を伝え合うときの言葉を知り、相手を尊重した言葉を選んで使う。(知・技) ・お互いに意見を伝えながら、友達の意見を参考によりよい言葉を選び順序よく内容を並べる。(思・判・表) ・友達と意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、自分の意見に生かそうとする。(学、人)	・自分や友達の意見の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選び、理由や事例を付け加えて順序よく内容を並べる。(思・判・表) ・友達と意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさを見付ける。(学、人)

C	前単元で取り組んだ説明書の読み取りは、得意な学習であったため意欲的で、正しく読み取ることができた。不安なとき、困っているとき、友達と関わるときなどに、自分の気持ちを上手く伝えられないことがある。相手の思いを考えずに話すことがあり、友達に不快な思いをさせてしまうことがある。プレゼンの内容を考える学習では「よさ」のポイントを確認しながら、より相手に伝えたいことを意識して内容を整理できる。相手に伝わりやすいように順序よく内容を並べることを意識する必要がある。	自分の言葉で、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝える。	- 相手の意見を尊重した言葉を選んで使う。(知・技) - お互いの意見の共通点や相違点を基に適切な言葉を選ぶ。(思・判・表) - お互いを尊重しながら意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさを見付ける。(学、人)	- 自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選び、理由や事例を付け加えて、順序よく内容を並べる。(思・判・表) - お互いを尊重して意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさを見付ける。(学、人)
D	見通しのある活動やパターンが決まっている活動が得意で、分からないことは国語辞典で調べる習慣が身に付いてきている。自分から人とコミュニケーションをとることが少なく、困ったときや難しいことがあるときに相談することが難しい。相手の気持ちに合わせた言葉選びや話し方が分からず、考え込むことがある。話合いの場面では、自分や友達の意見の共通点や相違点をもとに、グループの友達へ同意を示すようになってきている。	体験したことを順序よく文章にしたり、自分の感想や考えを項目に沿ってまとめて話したりする。	- 意見を伝え合うときの言葉を知り、相手を尊重した言葉を選ぶ。(知・技) - お互いに意見を伝え合いながら、友達の意見も参考にして順序よく内容を並べる。(思・判・表) - 自分の意見に自信をもち、自分から意見を伝えたり友達の意見を受け入れたりする。(学、人)	- 自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選ぶ。(思・判・表) - 自分から意見を伝えたり、受け止めたりしながら、自分や友達を選んだ言葉のよさに気付く。(学、人)
E 抽出生徒	前単元の説明書の読み取りでは、将来自分が使うときに気を付けることは何かを考えて読むことができた。相手の気持ちや場面に合った話し方、適切な言葉の選び方が難しいことがあり、相手に自分の思いが正しく伝わらないことがある。話合いの場面では、自分や友達の意見を見て、共通している内容を概ね理解できる。「よさ」のポイント表を参考に、相違点に気付いてより相手によさが伝わりやすい言葉を選ぶ経験を重ねている。	色々な文章に触れて内容を正確に読み取ったり聞き取ったりし、相手や目的に応じた文章を書く。	- 意見を伝え合うときの言葉を知り、相手を尊重した言葉を選んだり、適切に言葉を使ったりする。(知・技) - お互いの意見の共通点や相違点に注目してよさが伝わる言葉を選ぶ。(思・判・表) - 自分や友達を選んだ言葉のよさに気付いて、それを生かしてグループの意見をよりよいものにする。(学、人)	- 自分や友達を選んだ言葉を共通点や相違点に注目してよさが伝わる言葉を選ぶ。(思・判・表) - お互いの意見のよさや課題に気付き、それをグループの意見に生かす。(学、人)

(3) 配置図

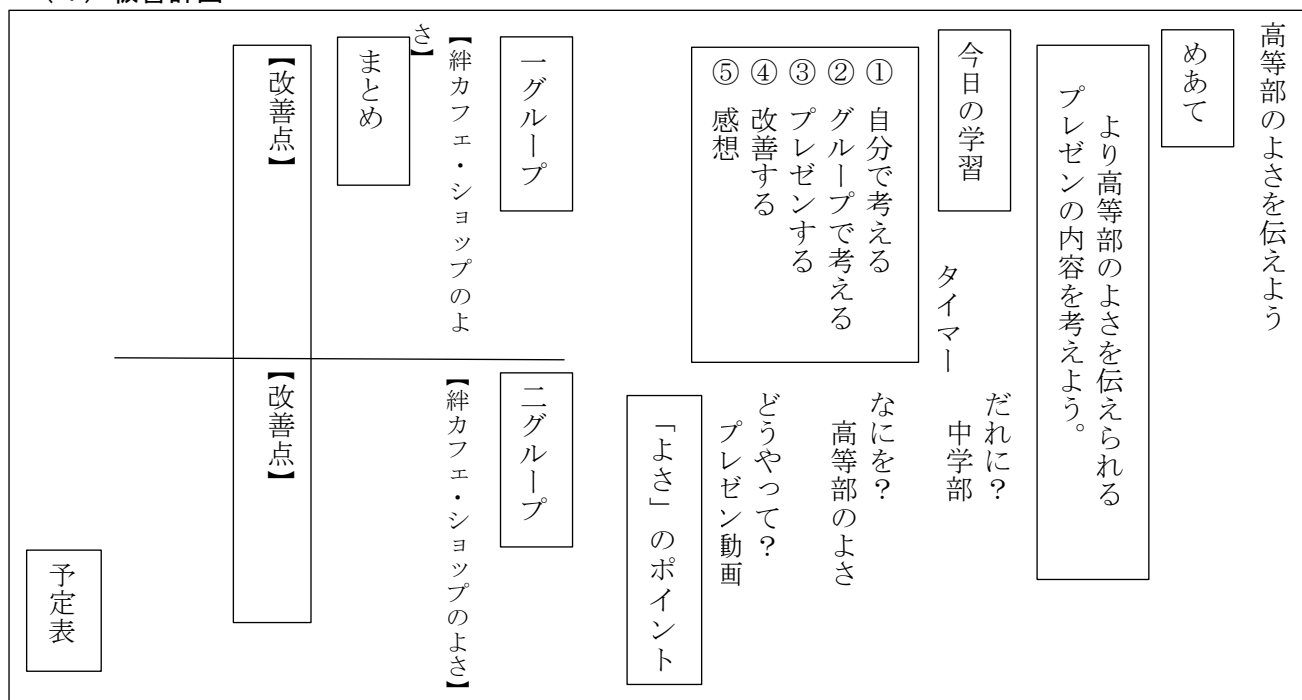


<活動 1、2>



<活動 3、4、5>

(4) 板書計画



(5) 学習過程

(※ゴシック体は、学びの実感に関する手立て)

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、手立て	準備物
9 : 45 (5)	1 はじめの挨拶をする。 2 本時の学習について確認する。	・プレゼンする相手や目的を意識できるように、だれに、なにを、どうやって伝えるかを確認する。 ・見通しをもって本時の学習に取り組むことができるように、予定表や本時の学習予定を確認する。(T 1)	予定表 本時の学習予定
	めあて より高等部のよさを伝えられるプレゼンの内容を考えよう。		
9 : 50 (35)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える。 テーマ：絆カフェ・ショップ (1) 自分の意見を書く。 (2) グループごとに1台のi P a dに意見をまとめる。 (3) i P a dを見ながらグループの意見について話合う。 1 グループ (T 2) A、C、D 2 グループ (T 1) B、E (4) グループの意見をまとめる。 (5) プレゼンをする。 (6) プレゼンの内容についてアドバイスする。	・意見を出すのが難しい生徒には、ポイント表や学びの履歴の掲示物を参考にするように提案したり、選択肢を与えたりする。 ・質問があるとき、困っているときは、適切な話し方で教師に話すことを確認する。 ・お互いの意見を尊重して話合うことができるように、必要に応じて話合いヒントカードを確認するように言葉掛けをする。 ・特にグループの意見の相違点に注目できるように、「よさ」のポイントを意識できるような発問をする。 ・グループの意見をまとめやすいように、相手に伝わりやすい順序になっているか問い掛ける。 ・お互いのグループの意見が確認しやすいように、i P a dの画面をモニターで共有する。(T 1) ・より相手に伝わるプレゼンを考えられるように、聞き手のグループと「よさ」のポイントを参考にしながら、ロイロノート上に伝わったところ、伝わらなかったところを書き込む。(T 1)	i P a d 学びの履歴の掲示物 ホワイトボード 話合いヒントカード 「よさ」のポイント表 モニター ケーブル 短冊 ペン
10 : 25 (10)	4 グループで振り返りをする。 (1) アドバイスをもとに、プレゼンを改善する。 (2) 改善したプレゼンをする。 (3) 今日の振り返り、改善したプレゼンへの感想を書く。 5 終わりの挨拶をする。	・プレゼンの改善がしやすいように、聞き手のグループから挙げた意見やアドバイスを短冊に記し改善点に示す。(T 2) ・改善点が分かりやすいように、どのように改善したのか板書で示す。(T 1) ・改善して伝わりやすくなったことを実感できるように、相手グループからの感想を紹介する。(T 1)	

(6) 評価

<生徒>

- ・自分や友達を選んだ言葉の共通点や相違点に気付き、適切な言葉を選んだり、理由や事例を付け加えながら内容を並べたりすることができたか。
- ・お互いの意見を伝え合い、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けて、グループの意見をよりよいものにできたか。

<教師>

- ・それぞれの意見の共通点や相違点に注目して適切な言葉を選んだり、理由や事例を付け加えながら内容を並べたりするための話合いの場の設定や教材は適切だったか。
- ・お互いの意見を伝え合う中で、自分や友達を選んだ言葉のよさや課題を見付けられるような話合いの場の設定や言葉掛けが適切だったか。

(7) 個別の目標（本時）に関わる支援

生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	・自分や友達の意見の共通点や相違点に気付いたり、言葉のよさを見付けたりすることができるように、「よさ」のポイントを参考にするように促す。(T 1) ・プレゼンの内容を整理しやすいように、「よさ」のポイントをもとに相手に伝わりやすい順序になっているか問い掛ける。(T 2)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える 4 グループで振り返りをする
B	・自分や友達の意見の共通点や相違点に気付いたり、言葉のよさを見付けたりすることができるように、「よさ」のポイントを参考にするように促す。(T 1) ・順序よく内容を並べることができるように、「よさ」のポイントを確認したり、相手に伝わりやすいか問い掛けたりする。(T 1)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える 4 グループで振り返りをする
C	・話合いで相手を尊重しながら意見を伝えたり、感想を話したりできるように、話合いヒントカードを確認するように促す。(T 1、T 2) ・自分や友達の意見の共通点や相違点に気付き、よりよい言葉を見付けられるように、「よさ」のポイントを基に言葉を選んだ理由を問い掛ける。(T 2)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える 4 グループで振り返りをする
D	・自分や友達の意見の共通点や相違点に気付くことができるように、意見の中で共通している内容は何かを問い掛けたり、必要に応じて別の言葉に言い換えて説明したりする。(T 2) ・自分の意見を出すことが難しいときには、選択肢や参考になる資料を示したりする。(T 2)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える
E	・自分や友達の意見の共通点や相違点に気付くことができるように、意見の中で共通している内容を問い掛ける。(T 1) ・お互いの意見のよさに気付きグループの意見に生かしやすいように、「よさ」のポイントを基にどの意見をプレゼンに使うか問い掛ける。(T 1)	3 高等部のよさについてプレゼンを考える

《研究同人》

校 長	鎌 田 裕 之	教 諭	伊 藤 千 聡
副 校 長	福 士 智 子	教 諭	東 海 林 紗 季 子
教 諭	佐 藤 和 春	教 諭	森 井 彩 椰
教 諭	藤 田 泰 幸	教 諭	千 葉 璃 子
教 諭	森 澤 裕 子	教 諭	渡 邊 芽 生
教 諭	矢 野 隆 治	養 護 教 諭	山 木 朋 子
教 諭	藤 本 博 明	実 習 助 手	布 田 毅
教 諭	加 藤 弘 子	実 習 助 手	須 藤 義 樹
教 諭	伊 藤 美 幸	臨 時 講 師	三 上 智 子
教 諭	畠 山 智 子	臨 時 講 師	佐 藤 明 子
教 諭	成 田 高 子	臨 時 講 師	大 山 裕 子
教 諭	港 拓 哉	臨 時 講 師	佐 々 木 有 子
教 諭	大 山 南 視 子	臨 時 講 師	目 黒 洋 一
教 諭 教	伊 藤 綾 華	臨 時 講 師	小 沼 后 子
諭	竹 田 泰 生	臨 時 講 師	佐 々 木 捷 吾
教 諭 教	豊 田 里 沙	臨 時 講 師	伊 藤 貴 浩
諭	工 藤 明 日 香	非 常 勤	佐 々 木 比 呂 子
教 諭	吉 田 翔 一		

令和5年度 研究紀要「ふきのとう」

発行年月 令和6年3月

編集発行 秋田県立比内支援学校たかのす校

〒018-3452 秋田県北秋田市七日市字家向49の内

TEL 0186-66-2128

FAX 0186-60-2102

E-mail takanosu-s@akita-pref.ed.jp

